

T S U R U M I



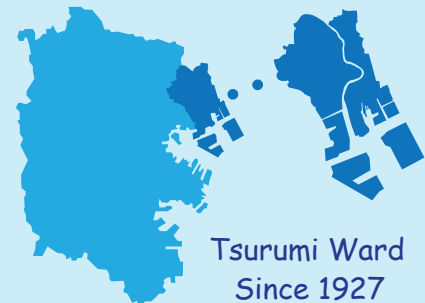
T S U R U M I

平成 29 年度版 鶴見区制 90 周年特別号



# 発見つるみ!

～データで見る鶴見区～



T S U R U M I



T S U R U M I

# はじめに

区民の皆様には、日頃より、鶴見区政の推進に御理解、御協力をいただき誠にありがとうございます。

鶴見区は、日本の高度経済成長を支えてきた臨海部の産業の発展とともに、就業者のための住宅地として、また、居住者・就業者の生活や利便性を支える商業地として、『商・住・工』の機能それぞれが密接な関連を持ち、一体となって発展してきました。現在では、人口は約28万8千人（市内18区中第3位）、世帯数は約13万6千世帯（市内18区中第2位）に達し、今もなお増加し続けております。

昭和2年に横浜市で最初の5区の1つとして誕生した鶴見区は、今年10月に90周年を迎えます。本書でも90周年を記念して、冒頭に特集ページを掲載しています。鶴見区の歴史を振り返ることで、地域への愛着を深め、ますます魅力的で元気のある鶴見区の未来につなげていきたいと考えております。

また、本書では特集以外にも、人口や産業をはじめ、生活に関連する様々なデータをもとに、鶴見区の特徴をまとめています。これまでの鶴見、そして、これからの鶴見を考えていただく際の資料として、御活用いただければ幸いです。

最後に、発刊にあたり、貴重な資料を御提供いただきました関係諸機関をはじめ、御協力いただきました皆様に心から御礼申し上げます。

平成29年9月 鶴見区長 征矢 雅和

# 目次

## 1 鶴見区制90周年特集

年表	1～2
橋と道路	3
鉄道	4～5
京浜臨海部	6～7
鶴見川	8
鶴見の伝統文化	9
文化の一大拠点「鶴見花月園」	10
多文化共生のまち	11

## 2 鶴見区のプロフィール

区の歩みと現状・誕生・地勢	12
鶴見区的主要指標	13

## 3 人口

人口の動向	14
年齢別の人口	15～16
外国人住民	17
就業状況・労働力人口・労働力率	18
流出人口・流入人口・昼夜間人口	18

## 4 産業

事業所	19
商業	20
工業	21

## 5 暮らしと環境

住宅・消防	22
交通・犯罪	23
環境	24
区民フェスティバル	25
市税・戸籍	26
生活保護・子育て	27
健康・選挙	28

## つるみマップ

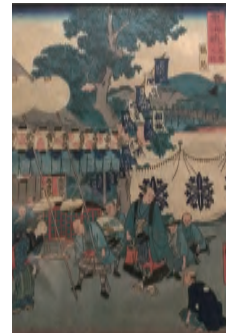
～ご利用にあたって～  
構成比、総数の合計については、端数を四捨五入しているため、内訳計と一致しない場合があります。



鶴見区制 90 周年を記念し、鶴見区の歴史を振り返ります。鶴見区は、江戸時代に旧東海道を往来する人々によって街道筋が賑わい、明治時代から埋め立てが進み京浜工業地帯の中核として発展するなど、多様性に富んだ歴史から成り立っています。また、歴史的な出来事だけでなく、地域の発展や文化の継承、多文化共生等、地域のために尽力した多くの人々の活動も鶴見区の歴史の中で重要な役割を果たしてきました。これらを踏まえ、様々な視点から鶴見区の歴史を紐解いていきます。

## 1 年表

年	月	できごと
建久元年 (1190年)		源頼朝、上洛 鴨志田十郎、馬場次郎、寺尾太郎、寺尾三郎太郎などが随行したことが『吾妻鏡』に記されている(平安時代末期)
承久3年 (1221年)		承久の乱 戦傷死者の中に潮田四郎太郎、潮田六郎、寺尾又太郎、寺尾左衛門尉などの名前が『吾妻鏡』に記されている
元弘3年 (1333年)		新田義貞挙兵、鶴見合戦おこる
建武元年 (1334年)		『松蔭寺古図』作成(室町時代)
永享8頃 (1436年)		諏訪氏が寺尾城を築城
慶長5年 (1600年)	10月	関ヶ原の戦い
6年 (1601年)		五街道整備、鶴見橋(現鶴見川橋)架設
16年 (1611年)		二ヶ領用水完成
嘉永6年 (1853年)	6月	ペリー来航
安政6年 (1859年)	6月	横浜開港(6月2日開港記念日)
文久2年 (1862年)	8月	生麦事件おこる
明治5年 (1872年)	9月	新橋・横浜間鉄道開通、鶴見駅開業
22年 (1889年)	4月	市制施行(人口116,193人) 市制施行に併せて、鶴見地域に旭村、生見尾村(後の鶴見町)、町田村(後の潮田町)誕生
38年 (1905年)	12月	品川・神奈川間に京浜電鉄(現京浜急行)開通、鶴見停留所(現京急鶴見駅)開業
44年 (1911年)	11月	曹洞宗大本山總持寺 鶴見に移転
大正2年 (1913年)		浅野総一郎、鶴見海岸の埋立に着手
3年 (1914年)	5月	平岡廣高、日本初の児童遊園地「鶴見花月園」を開園
12年 (1923年)	9月	関東大震災発生
14年 (1925年)	4月	鶴見町(旧生見尾村)と潮田町(旧町田村)が合併、鶴見町となる
15年 (1926年)	3月	鶴見線の前身「鶴見臨港鉄道」開通
	11月	第一京浜国道(現国道15号)全線開通
<b>昭和2年</b> (1927年)	4月	鶴見町、旭村(現在の神奈川区・港北区の一部)が横浜市に合併
	10月	横浜市の区制施行により鶴見区(当時の人口62,446人)誕生(鶴見・神奈川・中・保土ヶ谷・磯子の5区)
3年 (1928年)	6月	横浜市電子安線生麦～金港橋間開通
18年 (1943年)	7月	私鉄鶴見臨港鉄道が国に買収され、国鉄鶴見線(現JR鶴見線)になる
20年 (1945年)	4月	鶴見の大空襲で12,400余戸焼失
	8月	終戦
21年 (1946年)	11月	児童遊園地「鶴見花月園」閉園
25年 (1950年)	5月	花月園競輪場開場
29年 (1954年)	4月	三ツ池公園、県立公園に指定
31年 (1956年)	9月	横浜市、政令指定都市に指定
33年 (1958年)	3月	第二京浜国道(現国道1号)全線開通
	9月	台風22号で鶴見川氾濫 家屋水没648世帯、床上浸水14,000戸
38年 (1963年)	11月	国鉄鶴見事故161人死亡
41年 (1966年)	8月	横浜市電生麦線廃止
42年 (1967年)	5月	鶴見川、1級河川に指定



▲ 東海道之内鶴見 2代広重  
文久3年(提供:鶴見神社)



▲ 總持寺中雀門建設予定地(明治43年)  
(写真提供:鶴見歴史の会)



▲ 京浜工業地帯(昭和47年)

年	月	できごと
昭和 44 年 (1969 年)	5 月	「鶴見会館」開館
50 年 (1975 年)	4 月	獅子ヶ谷市民の森開園
52 年 (1977 年)	10 月	区制 50 周年 人口 237,678 人 (『鶴見区史』編纂)
55 年 (1980 年)	1 月	鶴見図書館開館
	12 月	末吉地区センター開館 (鶴見区第 1 号)
60 年 (1985 年)	10 月	鶴見公会堂開館
61 年 (1986 年)	3 月	鶴見駅西口市街地改造事業完了 (本市施行の初の再開発事業)
62 年 (1987 年)	10 月	区制 60 周年 人口 243,751 人 (『鶴見の歴史と人々の暮らし』編纂)
63 年 (1988 年)	1 月	鶴見区新総合庁舎完成、鶴見区マスコット「ワックン」制定
	11 月	「横溝屋敷」横浜市指定文化財第 1 号に指定
平成 元年 (1989 年)	9 月	ベイブリッジ・スカイウォーク完成
2 年 (1990 年)	6 月	上寺尾小学校コミュニティハウス (鶴見区第 1 号) 開所
	7 月	大黒ふ頭埋立完成
3 年 (1991 年)	2 月	鶴見区のシンボルマーク制定
	11 月	区民の花 (サルビア) 決定
6 年 (1994 年)	5 月	鶴見駅西口行政サービスコーナー設置 潮田交流プラザ (国際学生会館・地区センター・地域ケアプラザ (鶴見区第 1 号)・ふれあいショップ PORT) 開館
	12 月	鶴見つばさ橋開通
7 年 (1995 年)	4 月	環境事業局鶴見工場本格稼働
8 年 (1996 年)	7 月	大黒海づり公園開園、高齢者保養研修施設「ふれーゆ」オープン
9 年 (1997 年)	5 月	入江川せせらぎ緑道開通
	10 月	区制 70 周年 人口 250,883 人 (『鶴見懐かしの写真集』を編纂・出版)、区の木 (サルスベリ) 決定
10 年 (1998 年)	10 月	中途障害者地域活動センター「ふれんどーる鶴見」開所
11 年 (1999 年)	7 月	馬場花木園開園
	10 月	福祉保健活動拠点開設
12 年 (2000 年)	4 月	理化学研究所横浜研究所発足
	5 月	特別養護老人ホーム「新鶴見ホーム」開所
	11 月	障害者地域活動ホーム「幹」開所
	12 月	「馬場赤門公園」開園
13 年 (2001 年)	3 月	「横浜市産学共同研究センター」開設
	4 月	「横浜市立大学大学院 (連携大学院)」開校
14 年 (2002 年)	1 月	福祉保健センター開設
15 年 (2003 年)	4 月	横浜新技術創造館「リーディングベンチャープラザ」開館
16 年 (2004 年)	4 月	国道 357 号開通
18 年 (2006 年)	1 月	「ゆうづる」(鶴見市場地域ケアプラザ・鶴見市場コミュニティハウス) 開所
19 年 (2007 年)	3 月	東部地域中核病院「済生会横浜市東部病院」開院
	5 月	鶴見中央地域ケアプラザ開所
	10 月	区制施行 80 周年 人口 267,447 人 (『つるみみやげ』制定)
21 年 (2009 年)	4 月	横浜サイエンスフロンティア高等学校開校
22 年 (2010 年)	3 月	花月園競輪場閉園
	11 月	「鶴見会館」閉館
	12 月	鶴見国際交流ラウンジ・鶴見中央コミュニティハウス開館
23 年 (2011 年)	3 月	区民文化センターサルビアホール開館、鶴見駅東口地区第一種市街地再開発事業完了
24 年 (2012 年)	1 月	生麦地域ケアプラザ開所
	4 月	福島県棚倉町、西会津町と友好交流協定書を締結
	11 月	鶴見駅 駅ビル「CIAL 鶴見」開業
25 年 (2013 年)	2 月	石川県輪島市と友好交流協定書を締結
	4 月	鶴見駅西口第二自転車駐輪場オープン (1,000 台を収容)
27 年 (2015 年)	2 月	馬場地域ケアプラザ開所
	8 月	二ツ池公園一部公開
	11 月	鶴見駅東口駅前広場整備完了
29 年 (2017 年)	3 月	横浜北線開通
	10 月	区制施行 90 周年



▲ 鶴見駅東口 (昭和 50 年代)  
(写真提供: 鶴見歴史の会)



鶴見区のシンボルマーク



鶴見区のマスコット  
ワックン



▲ 理化学研究所横浜キャンパス  
(写真提供: 理化学研究所)



▲ 青少年育成サイエンス交流事業  
主催: 鶴見区役所・横浜サイエンスフロンティア高等学校  
(※写真は平成 28 年度の様子)



▲ 横浜北線開通記念イベント  
(平成 29 年 3 月 11 日)

## 2 橋と道路

人の移動や物流を支える橋と道路は、その歴史を紐解くと、当時の人々の生活や社会情勢を垣間見ることが出来ます。ここでは、鶴見川橋と旧東海道、響橋と第二京浜国道について紹介します。

### ● 鶴見川橋と旧東海道

旧東海道は、慶長 6 年（1601 年）に徳川家康によって、江戸と京都を結ぶ最重要交通路として整備され、江戸時代を通じて多くの人馬や物資が行き交いました。初代の鶴見橋（現 鶴見川橋）も慶長 6 年頃に架けられたと言われており、富士山や箱根の連山が見える風光明媚な場所としても知られ、広重の絵や多くの紀行文などにも描写されています。文政 7 年、下田奉行小笠原長保は『甲申旅日記』で次のように記しています。「鶴見村の鶴見橋をわたる。長さ二十六間といへり。右のかたは、はるかに田の面を打こえて山々つらなれり。左は青海原にて、いと景よろし。」（鶴見区史編集委員会昭和 57 年『鶴見区史』鶴見区史刊行委員会）



五十三次名所図会（三）  
川崎鶴見川生麦之里 広重  
（提供：鶴見神社）

大正 15 年に、開通した第一京浜国道の橋に橋名を譲り、鶴見川橋となりました。

街道沿いの鶴見村や生麦村は、川崎宿と神奈川宿の中間に位置していたことから「間の宿」と呼ばれ、旅人の休憩地としての役割を果たしており、たくさんの茶屋が並び大変賑わっていました。当時鶴見橋（現 鶴見川橋）付近の茶屋で売られていた街道の名物「よねまんじゅう」は、現代の製法で昭和 57 年に復活し、今も鶴見の銘菓として親しまれています。

横浜開港後、不安定な政治情勢を背景に、旧東海道では、幕臣や公家、諸藩の藩士、外国人が頻繁に通行するようになり、文久 2 年（1862 年）、国内外に衝撃を与えた「生麦事件」が発生します。薩摩藩主の父島津久光の行列を横切ったイギリス人が藩士によって殺傷され、外交問題にまで発展しました。事件後、鶴見橋（現 鶴見川橋）には、攘夷派浪士を取り締まるための番所が設置されました。

### ● 響橋と第二京浜国道

「めがね橋」という愛称を持つ響橋は、第二京浜国道（現 国道 1 号）の建設に伴って架けられた陸橋です。関東大震災後、京浜工業地帯の発展や自動車の普及が進み、第一京浜国道（現 国道 15 号）の交通量が限界に達したことから、第二京浜国道の建設が計画され、水道道を分断させないために響橋（当初は寺尾橋）の建設が計画されました。第二京浜国道は、昭和 15 年に開催予定だった幻の東京オリンピックのマラソンコースとして使用することが予定されており、響橋はその折り返し地点として想定されていました。戦争の影響でオリンピックは中止されたものの、橋の工事は継続され、昭和 16 年 3 月に竣工しました。

響橋の設計は、後に長野県穂高の碌山美術館や皇居内の桃華楽堂などを手がけた建築家今井兼次氏が行いました。昭和初期に欧州を視察し、スペインのガウディなどの影響を受けた今井氏は、アーチ型の優美な橋をデザインしました。後に「かながわの橋 100 選」に選ばれ、平成 28 年度にはその歴史的・景観的価値から土木学会選奨土木遺産に認定されました。



響橋（昭和 31 年）  
（写真提供：鶴見歴史の会）

### 3 鉄道

文明開化の象徴でもある鉄道は、明治初期の開業以来、人々の暮らしや物流、国の発展に大きな影響を与えてきました。鶴見区においても、まちの発展と鉄道は密接な関係にあります。

#### ● 鶴見駅

日本で最初の鉄道である新橋・横浜間が開通した明治5年に鶴見駅も開業しました。鶴見駅は、現在の位置より少し横浜寄りに設置されました。



明治時代の鶴見駅（開業当時は東口だけだった）



大正9年に開業した鶴見駅西口



#### ▲ 總持寺の移転

能登にあった曹洞宗大本山總持寺は、明治31年に火災で焼失。明治44年、能登から鶴見駅の近くの現在地に移転しました。移転後、多くの参拝客が訪れるようになりました。



#### ▲ 大正6年浅野造船所開業式当日の鶴見駅

大正時代、鶴見の臨海部が埋め立てられ、造船所や製鉄所などの工場が次々と建設されました。工場群の発展とともに工場労働者の集住が進み、駅周辺の賑わいも増していきました。

(写真提供：鶴見歴史の会)

#### ◀ 昭和30年頃の鶴見駅東口

鶴見区は、昭和20年の大空襲により焼け野原となり、壊滅的な被害を受けました。終戦直後、鶴見駅前では、やみ市が開かれていましたが、復興が進み商店街も徐々に復活していきました。高度成長期を迎えた昭和30年には、鶴見区の人口も戦前の人口を上回る20万人を突破しました。



## ● 鶴見臨港鉄道

大正 15 年、浅野総一郎氏らの尽力によって、鶴見線の前身「鶴見臨港鉄道」が開通しました。埋立地に建設された工場群への輸送機関として京浜工業地帯の発展を支えました。



全線開通時の鶴見臨港鉄道



扇町駅



### ◀ 浅野駅

浅野総一郎氏の姓から命名。浅野造船所と製鉄所の工場従業員等が利用していました。



### ◀ 国道駅

アールヌーボー調建築の国道駅の駅構内には、かつて「臨港デパート」があり、食品や日用雑貨、文具、衣料品などが販売されていました。

(写真提供：鶴見歴史の会)

## ● 新鶴見操車場

京浜工業地帯の発展に伴い、原料や製品を輸送する貨物列車の編成や車両の入れ換えを行うために、農村地帯だった矢向・江ヶ崎に「新鶴見操車場」が建設されました。昭和 4 年に第 1 期工事が完了し、東京・川崎・横浜の三都市で発着する貨物輸送と、東北・上信越・常磐・総武と、東海道線、臨港地帯相互間の貨物中継が行われました。

トラック輸送が主流になり、京浜工業地帯の発展と日本の貨物輸送を支えた操車場は、昭和 59 年にその役目を終えました。跡地には、平成 7 年に新鶴見小学校や新鶴見小学校コミュニティハウスができ、平成 28 年には、矢向・江ヶ崎・尻手歴史資料室および交流室「史季の郷」が地域の人々によって整備されました。



黒煙をあげる D51



機関車が並ぶ新鶴見操車場



### ◀ 旧江ヶ崎跨線橋

旧江ヶ崎跨線橋は、新鶴見操車場建設に伴う地域分断解消のため、隅田川に明治 29 年に架けられた英国製の鉄道橋を転用して架けられました。「かながわの橋 100 選」に選ばれましたが、老朽化が進み、平成 25 年に新しい橋に架け替えられました。

(写真提供：土田泰敏様)

## 4 京浜臨海部～工業地帯から研究開発拠点へ～

欧米諸国のような臨海工業地帯を築く—そんな壮大な夢を抱いた浅野総一郎氏の尽力によって、鶴見区は京浜工業地帯の中核として発展しました。現在の京浜臨海部は、研究機関や研究開発型ベンチャー企業の集積地として再開発が進められています。

### ● 京浜工業地帯の形成

欧米の港湾を視察した浅野総一郎氏は、臨海部に広がる工場群と発達した港湾施設の光景を目にし、日本での大規模な埋立地の造成を決意しました。東京と横浜の間に位置し、交通の便がよく、かつ遠浅であるという好条件を備えた潮田の地先を選び、明治45年に「鶴見埋立組合」を設立しました。地域の住民がこの埋立てによって生業を失うことなどから、地元の理解を得るまでに時間を要しましたが、大正2年に認可があり、同年工事が開始されました。埋立ては、イギリスから輸入した電動式のサンドポンプで行われました。



埋め立てられる遠浅の海（大正5年）

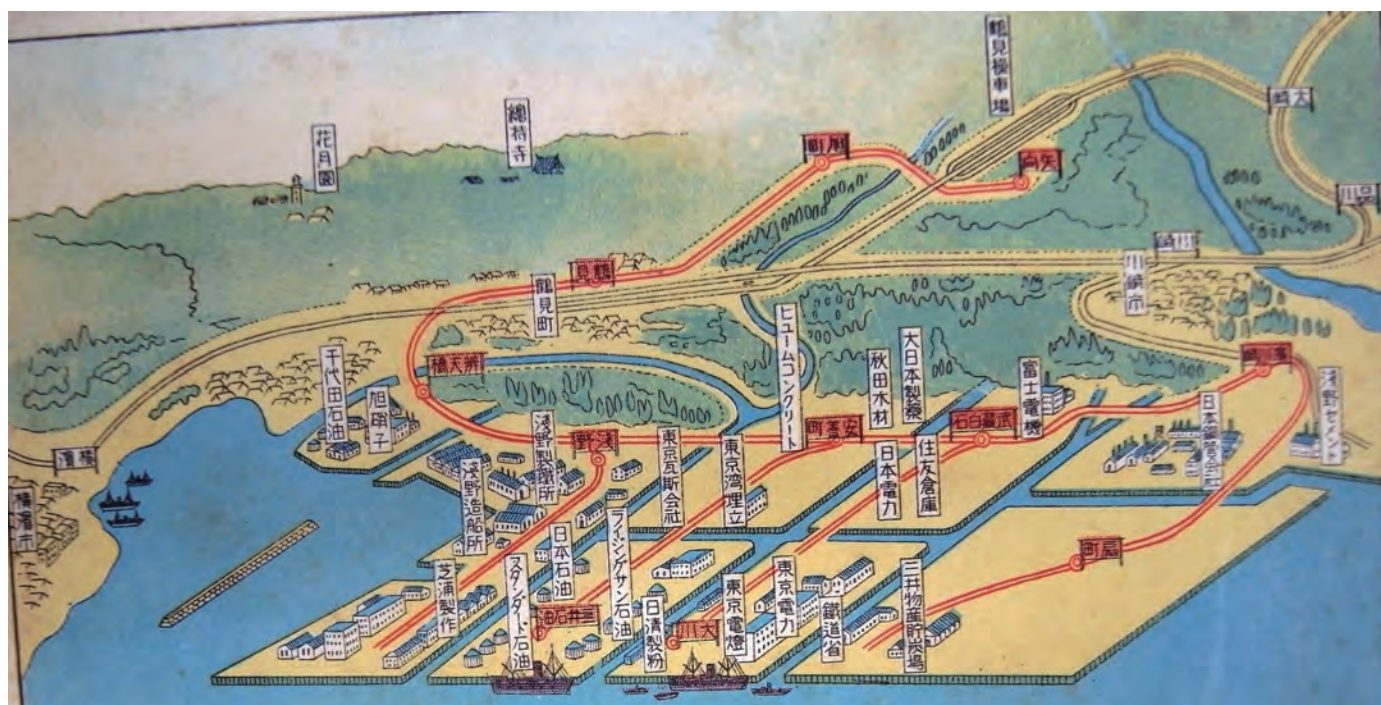


#### ◀ 浅野総一郎氏

嘉永元年（1848年）、富山県氷見市生まれ。薪や炭、石炭の販売で成功、横浜瓦斯局（※）が処分に困っていたコークスの利用法を考案するなど事業家としての道を歩み始めました。渋沢栄一氏の協力を得て官営セメント工場の払い下げに成功した後、石油の輸入や造船など様々な事業に投資し、大企業家として歴史に名を残しました。

※ 横浜瓦斯（ガス）局

日本最初のガス会社「横浜瓦斯会社」が明治8年に「横浜瓦斯局」に改称。馬車道や本町通りのガス灯にガスを供給していました。



埋立地には、製鉄所や造船所といった多くの工場等が進出しました。

（写真・資料提供：鶴見歴史の会）



## ● 京浜工業地帯の活力低下

浅野総一郎氏らによって埋め立てられた京浜臨海部は、日本の重化学工業における重要な拠点として発展しました。戦時中に空襲で壊滅的な被害を受けましたが、戦後の復興期に集中的な設備拡充が実施され、高度経済成長の牽引役としての役割を果たしました。

しかし、工業地帯の急速な発展によって深刻な公害が発生し、国によって工場立地法等の工業諸規制が行われるようになると、生産性の低下や操業環境の悪化が次第に顕著になっていきました。



国鉄鶴見線と京浜工業地帯（昭和 30 年代）（写真提供：鶴見歴史の会）



昭和 47 年の京浜工業地帯

## ● 京浜臨海部の再編整備・末広地区でのライフイノベーションの推進

危機感を抱いた産業界や横浜市が昭和 59 年に「京浜工業地帯再整備基本構想策定委員会」を組織し、地域活性化の方策などについて議論を行いました。平成に入ってから、国土庁（現 国土交通省）による調査が実施され、京浜臨海部の活性化が国政レベルの課題として認知されるようになります。

横浜市では、様々な調査や議論の結果を踏まえ、平成 9 年、新しい研究開発拠点の形成に取り組むことなどを掲げた「京浜臨海部再編整備マスタープラン」を策定しました。マスタープランでは、末広地区などが重点整備地区に指定され、既存の産業集積を活用し、基礎的な研究から商品開発等が総合的に行われる研究開発拠点として整備されることになりました。平成 12 年に理化学研究所横浜研究所（当時）、平成 13 年に横浜市産学共同研究センターと横浜市立大学（連携大学院）が開設されました。

平成 23 年 12 月には、末広地区をはじめとする 4 拠点が「京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区」として国から指定されました。（現在 17 拠点）

京浜臨海部に集積する産業基盤等の地域資源を最大限に活用しつつ、医薬品・医療機器産業を活性化させ、経済成長とライフイノベーションの実現に向けた取組が推進されています。

京浜臨海部再編整備マスタープランは、産業構造の変化や環境・防災への意識の高まりから、平成 29 年 2 月に「横浜市京浜臨海部再編整備マスタープラン改定審議会条例」を制定、審議会による見直しが検討されています。



理化学研究所横浜キャンパス

（写真提供：理化学研究所）



京浜臨海部

（写真提供：横浜市港湾局）

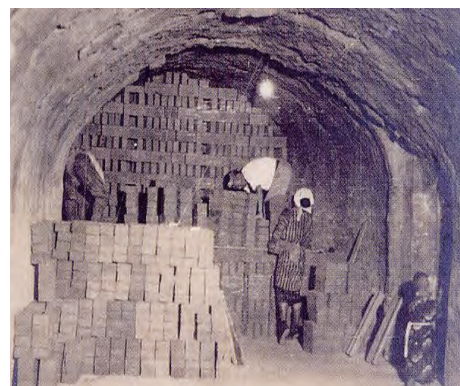
## 5 鶴見川

鶴見川は、曲がりくねっていることに加え、傾斜が緩やかであるため、大雨が降るたびに下流で洪水を繰り返し、人々の暮らしを脅かしてきました。一方で、鶴見川は流域に豊かな恵みをもたらし、人々の暮らしを支え、地域特有の文化を育んできました。

### ● 煉瓦

横浜開港後、日本で西洋建築の導入が進み、煉瓦の需要が増加しました。矢向など鶴見川下流域では、川岸の土が粘土質で煉瓦の製造に適していたことから、明治から昭和初期にかけ、たくさんの煉瓦が製造されました。製造された煉瓦は、船便で東京駅や丸の内のビル街、横浜の赤レンガ倉庫など多くの建設現場に出荷されました。

関東大震災で煉瓦造りの建造物が倒壊したことで需要が減ったため、震災後、煉瓦工場は姿を消していきました。



煉瓦工場の様子 (写真提供: 鶴見歴史の会)

### ● 製材

原木を輸入する横浜港に近かったことなどに加え、流れが緩やかで木材の運搬に適していたことから、かつて鶴見川の下流の川岸には製材工場が多くありました。川岸には製材前の多くの木材が係留される光景が見られました。



製材工場が多かった鶴見川  
(写真提供: 鶴見歴史の会)



鶴見川の川岸で係留される木材

### ● 舟運

大正末期頃まで、鶴見川流域は回船業が盛んで、川筋は多くの船で賑わいました。茶舟または伝馬船と呼ばれる長さ6メートルくらいの小さな船から、建築用材などを運ぶ大きな船も行き来していました。

右は、大正13年に行われた第五神力丸の進水式の写真です。第五神力丸は、大正末期から昭和初期にかけて沖泊まりの船から沿岸の工場への貨物輸送船として活躍しました。



第五神力丸の進水式

### ● 文学

人々の暮らしと深い関係にあった鶴見川は、庶民の姿を描く文学作品の舞台にもなりました。鶴見に住んでいた芥川賞作家八木義徳氏が昭和29年に発表した『少女図』は、鶴見川の川沿いを舞台にした作品です。鶴見川を散歩中に美しい少女を見かけた主人公は、その少女にすっかり心を奪われ、また一目見ようと鶴見川に通い続けます。ある日、主人公はついに鶴見川のそばの工場で少女を見かけます。そこで主人公は、少女の家が貧しく、少女は小舟で鶴見川を上り下りして川沿いの工場で菓子を売り歩いていることを知るのでした。鶴見川の川岸に広がる湿地帯の風景とともに、川沿いに生きる貧しい少女の姿が主人公の目線から美しく哀しく描かれています。

## 6 鶴見の伝統文化

鶴見区には、人々の暮らしの中で長い年月をかけて生まれ、大切に受け継がれてきた様々な伝統文化があります。

### ● 鶴見の田祭り

鶴見神社の「鶴見の田祭り」は、鎌倉時代から鶴見に伝えられてきた横浜最古の民俗芸能です。田祭りは、「練れ、練れ、練れや」で始まる「神寿歌（かみほぎうた）」に合わせ、稲作の一連の所作を模造の鍬や鎌など使って歌い踊り、豊作と子孫繁栄を願った予祝の行事です。明治初期に途絶えてしまいましたが、鶴見歴史の会や地元有志の方々の多大な努力により 110 余年ぶりに復活しました。

神寿歌は、江戸時代の著名な国学者黒川春村氏が、「古風な祭礼の中で歌われる古雅な唱歌」と称え、柳田國男氏も注目した民俗や風習などを伝える、文学的にも民俗学的にも優れた貴重な文献です。田祭り（田遊び）は、三河・遠江・駿河の東海道筋から相模国の一宮（寒川神社）を経て鶴見にも伝わったと考えられています。

貴重な伝統芸能を復活させるべく、昭和 58 年に旧家に眠っていた古文書などを発掘し田祭りに関する調査研究が開始されました。他地域で継承されている「田遊び」も見学し、所作や節回しなどを参考にして、昭和 62 年に民俗芸能「鶴見の田祭り」が再興しました。現在は毎年 4 月 29 日に開催されており、平成 29 年に再興 30 周年を迎えました。

（写真は平成 29 年度の様子。写真提供：鶴見田祭り保存会）



代かき



種まき



柄振りかき

### ● 蛇も蚊も祭り

生麦の蛇も蚊も祭り（じゃもかもまつり）は、疫病退散と豊年豊漁を願って江戸時代から続く貴重な伝統文化行事で、横浜市指定無形民俗文化財にもなっています。毎年 6 月の第 1 日曜日に、茅（カヤ）で作った全長約 20 メートルの大蛇を担ぎ、「蛇も蚊も出たけ 日よりの雨け」というかけ声をかけながら生麦の町を練り歩きます。



本宮蛇も蚊も保存会の大蛇



生麦蛇も蚊も保存会の大蛇

### ● 横溝屋敷

獅子ヶ谷にある横溝屋敷は、山と竹林に囲まれた自然豊かな敷地に、表門、穀蔵、文庫蔵、主屋、蚕小屋の 5 棟からなる屋敷構えが創建当時のまま残されており、江戸時代の農村生活の名残りを伝えています。昭和 63 年に横浜市指定文化財に指定されました。七草がゆ、豆まき、ひな祭り、お月見、田植え・稲刈り体験等四季折々の行事が行われており、自然と調和した豊かな暮らしの営みが地域で受け継がれています。



横溝屋敷

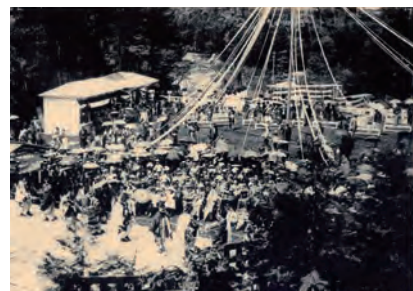
## 7 文化の一大拠点「鶴見花月園」

かつて東洋一の児童遊園地といわれた「鶴見花月園」は、平岡廣高氏によって大正3年に開業しました。珍しい遊具やダンスホール、劇場があり、多いときには1日に7万人も訪れた「東洋一」と称された大遊園地で、日本を代表する文人墨客も大勢訪れ、鶴見における文化の一大拠点として発展しました。

### ● 鶴見花月園の開園

新橋の料亭「花月楼」の主人平岡廣高氏は、明治45年にパリ郊外の児童遊園地を訪れ、子ども本位につくられた遊園地の様子に感銘を受けました。

日本の子どもたちの知育と体位向上のために児童遊園地をつくりたい。そう決意した平岡廣高氏は、帰国後、江戸時代から子育て観音霊場として信仰を集めていた生見尾村大字鶴見（現在の鶴見区鶴見一丁目）の東福寺の境内を借りて大正3年5月に鶴見花月園を開園しました。メリーゴランド、豆汽車、大山すべり、お化け屋敷、観覧車など、当時としては珍しい遊具や施設に子どもたちは目を輝かせ、鶴見花月園は子どもたちに大人気の遊園地となりました。



開園式当日は、芸者衆による華やかな手古舞が披露されました。

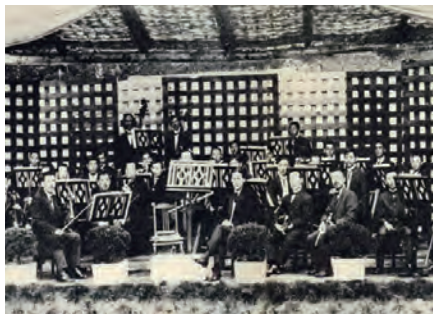
(写真提供：鶴見歴史の会)

### ● 文化の一大拠点として発展

遊具の他にも、様々な文化施設がつくられ、鶴見花月園は文化の一大拠点としての歴史を歩み始めます。大正3年に設置された野外劇場では、市川猿之助氏主演の野外劇が演じられ、ドイツ留学から帰国した山田耕筰氏の指揮による東京フィルハーモニー会管弦楽部の演奏会などが開かれ、質の高い芸術活動が展開されました。また、大正9年には日本で最初の本格的な営業用ダンスホールも開業され、大正11年に設立された花月園少女歌劇は児童文学者の鈴木三重吉氏なども参画して質の高い演劇活動を展開し、「東の宝塚」とも称されました。



豆汽車に乗る子どもたち



山田耕筰指揮 管弦楽野外演奏会



「東の宝塚」と称された花月園少女歌劇  
(写真提供：鶴見歴史の会)

### ● 戦後の経済復興に貢献した花月園

多くの人々に親しまれた花月園は、戦時中、軍需物資の倉庫に転用されていました。戦後、子どもたちの夢を育んできた遊園地は閉園し、昭和25年、戦後の経済復興を目的として公営競技場「花月園競輪場」が跡地に開設されました。しかし、その競輪場も売上減少などにより平成22年にその幕を閉じました。現在、花月園競輪場跡地と隣接する民間企業社宅跡地では、防災公園と住宅地等の整備が一体的に進められています。



「さよなら花月園競輪場イベント」  
(平成27年11月23日)

## 8 多文化共生のまち

鶴見区は、市内2番目に外国人人口が多く、市全体に比べ南米出身者の構成比が大きいことや、沖縄にルーツを持つ人々が多いことが特徴であり、多様な文化が息づいています。

### ● 沖縄と鶴見

沖縄の県外・海外への移住は、明治30年代にさかのぼります。当時沖縄では、土地整理事業により土地を失った人々が県外・海外へ移住するようになりました。さらに大正9年以降、主要作物であった砂糖の価格暴落で経済が困窮を極め、移住に拍車がかかりました。ちょうど同じ頃、鶴見では埋立事業などにより労働力の需要が高まり、多くの沖縄出身の労働者が定住するようになりました。戦前戦後にかけても、同郷出身を頼った沖縄の人々が鶴見に移り住みました。



鶴見沖縄県人同志会（昭和2年設立）  
（写真提供：横浜・鶴見沖縄県人会）

### ● 沖縄の伝統芸能

沖縄では、古くから集落毎に村芝居と称して豊年踊りが催されていました。鶴見の沖縄コミュニティでも、催し事の際には、沖縄伝統の演劇や歌劇、舞踊が披露されていましたが、戦争で途絶えてしまいました。

終戦後、横浜・鶴見沖縄県人会のメンバーなどの奮闘により、沖縄芸能の公演やイベントが積極的に行われるようになりました。



鶴見沖縄県人会公演（昭和31年）  
組踊り『伏山敵討』より。  
鶴見沖縄県人会会員が出演。



第一回おきつる芸能祭（平成26年）  
沖縄芸能の継承と普及を目的として、民謡や琉舞を披露。

（写真提供：横浜・鶴見沖縄県人会）

### ● 南米と鶴見

鶴見区に南米出身者が多く移住するようになったきっかけは、平成2年の入国管理法改正です。バブル経済期の製造業などの人手不足を背景に、日系人が就労可能となる在留資格が創設され、南米を中心とした国々から多くの日系人が日本に移住しました。かつて沖縄から南米に移住した人々やその子孫である日系人の中には、沖縄出身者を頼って鶴見区に移住した人々が多くいました。こうしたことから鶴見区は南米にルーツを持つ人々が多く住むようになりました。

### ● 多文化共生の歩み

海外からの移住者が急増したことを受け、地域の人々による日本語教室の運営や相談対応等の支援が行われるようになりました。近年は文化交流のイベント等も開催されるようになり、相互理解に基づく多文化共生の取組が進められています。



ブラジルの伝統的な祭り「フェスタジュニーナ（6月の祭）」（会場：潮田小学校／平成16年）



鶴見区在住の外国人を対象としたNPO法人ABCジャパン主催の日本語教室（平成22年）

（写真提供：安富祖美智江様）



# 1 区の歩みと現状・誕生・地勢



鶴見区シンボルマーク  
平成3年2月14日制定

区制施行：昭和2年10月1日  
〒230-0051  
横浜市鶴見区鶴見中央三丁目  
20番1号  
Tel 045-510-1818 (代表)  
Fax 045-510-1889

面積：32.38k㎡ (平成29年5月1日現在)  
人口：288,313人 (同上)  
世帯数：135,685世帯 (同上)  
区民の花：サルビア (平成3年11月制定)  
区の木：サルスベリ (平成9年10月制定)  
マスコット：ワックン (昭和63年1月制定)

## ● 区の歩みと現状

鶴見区は市の北東部に位置し、昭和2年10月1日、横浜市の区制施行により誕生しました。「鶴見」の名は鎌倉時代の史料からも現れており、源頼朝がこの地で鶴を放ったという伝説からその名がついたという説もありますが、「ツル」は「鶴」とは関係なく水路や河川の周辺の地を、「ミ」は「まわり、めぐり」を意味する語で、「ツルミ」は蛇行している鶴見川の地形を表しているという説もあります。

鶴見は、江戸時代の頃から鶴見川の水運や東海道を往来する人によって、川筋や街道筋が賑わっていました。漁業が盛んだった沿岸部では、明治の頃から埋め立てが進み、京浜工業地帯の中核として日本の重化学工業を支えてきました。戦後は、高度経済成長とともに、商工業の集積と人口増加が進みました。

現在の鶴見区は、約29万人の人口を擁し、住宅地が連なる丘陵部「丘のまち」、鶴見川に沿った「川のまち」、臨海部の「海のまち」で構成されています。

「丘のまち」には、県立三ツ池公園や獅子ヶ谷市民の森などの豊かな自然があり、四季折々の美しい景色を楽しむことができます。また、横浜市指定文化財の横溝屋敷や、横浜市認定歴史的建造物の澤野家長屋門（通称「馬場の赤門」）などが保全・活用され、歴史を活かしたまちづくりが行われています。

鶴見川を中心とした「川のまち」では、工場から住宅などへの利用転換が進み、工業、商業、住宅が混在するまちとなっています。外国人が多く住む国際色豊かな地域でもあり、鶴見川は、多くの区民が散歩などで親しむ鶴見区のシンボルとなっています。

臨海部の「海のまち」では、生命科学の世界的な研究施設「理化学研究所横浜キャンパス」や産学連携を推進する「横浜市産学共同研究センター」などが末広地区に整備され、国際的な一大研究拠点＝横浜サイエンスフロンティアとしての再編整備が進んでいます。



## ● 誕生

資料：「鶴見区史」鶴見区史刊行委員会・「横浜の町名」横浜市民局

神奈川県橋樹郡

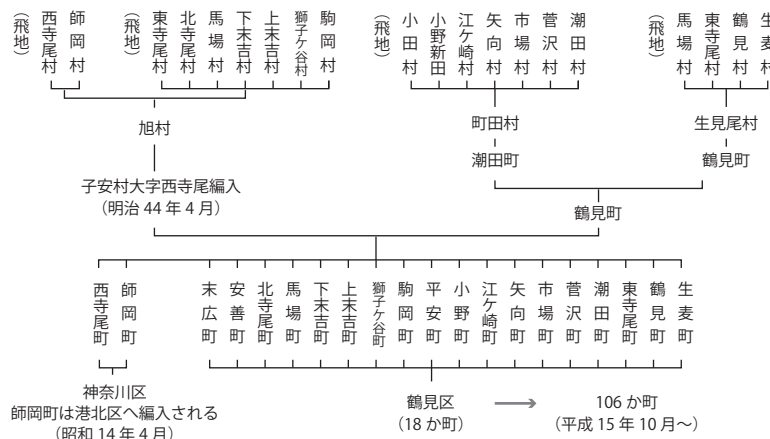
(明治22年) 町村分合改称令により各村合併

(大正14年4月) 町制施行  
1か町1か村になる

神奈川県横浜市

(昭和2年4月) 横浜市に編入

(昭和2年10月) 区制施行



## ● 地勢

- 極東：扇島
- 極西：上の宮二丁目
- 極南：大黒ふ頭
- 極北：矢向六丁目
- 最高地：馬場四丁目 (海面からの高度47.2m)

## 2 鶴見区的主要指標

区分	鶴見区	横浜市	18区中順位	基準日
人口	288,313人	3,733,807人	3位	H29.5.1
世帯数	135,685世帯	1,671,190世帯	2位	H29.5.1
面積	32.38km <sup>2</sup>	435.29km <sup>2</sup>	4位	H29.5.1
人口密度	8,904人/km <sup>2</sup>	8,578人/km <sup>2</sup>	7位	H29.5.1
平均年齢	43.62歳	45.25歳	15位	H29.1.1
老年人口比率 (65歳以上)	20.7%	23.8%	14位	H29.1.1
年少人口比率 (15歳未満)	13.0%	12.4%	5位	H29.1.1
事業所数 <small>(H28 経済センサス活動調査速報 （事業内容等不詳を含む）</small>	9,523	126,472	4位	H28.6.1
事業所従業者数 <small>(H28 経済センサス活動調査速報)</small>	111,887人	1,491,654人	5位	H28.6.1

※順位は数値の大きいものから並べた際の順位です。

※事業所数及び事業所従業者数は、民営事業所数の数字です。

### COLUMN 横浜北線開通！

平成29年3月18日に、首都高速道路横羽線「生麦ジャンクション」と第三京浜道路「横浜港北ジャンクション」を結ぶ横浜北線が開通しました。

#### 横浜北線の開通効果について

1 横浜市北部と横浜港が直結  
物流の効率化が見込まれています。

2 横浜市北部から羽田空港へのアクセスが向上  
空港連絡バスの利便性向上が期待されています。

地域経済の活性化や  
観光振興、防災ネット  
ワークの強化も期  
待されているよ！



※東京2020オリンピック・パラリンピックまでの開通を目指します。

#### 開通後の利用状況（平成29年4月27日速報）

- 1 1日あたりの交通量：約8,000～16,000台（新横浜～岸谷生麦間）
- 2 新横浜と横浜港間は、約8分短縮（約24分→約16分）。
- 3 新横浜駅と羽田空港間の所要時間は、約12分短縮（約43分→約31分）

（出典：首都高速道路株式会社）



横浜北線開通式（平成29年3月18日）

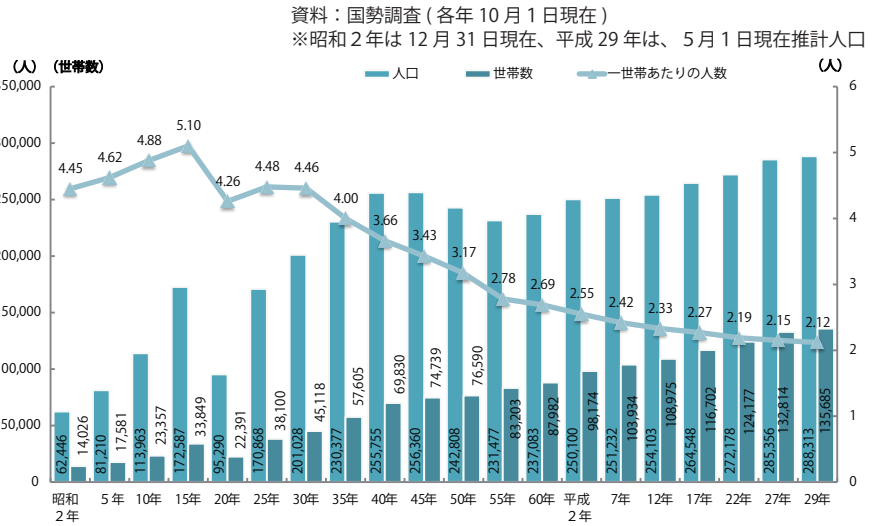


# 1 人口の動向

## ● 人口及び世帯数の推移

戦後、増え続けていた人口は昭和43年7月の260,777人をピークに一時減少し、昭和56年4月に229,945人と落ち込みましたが、その後は緩やかな増加が続いています。一方、世帯数は年々増加しています。

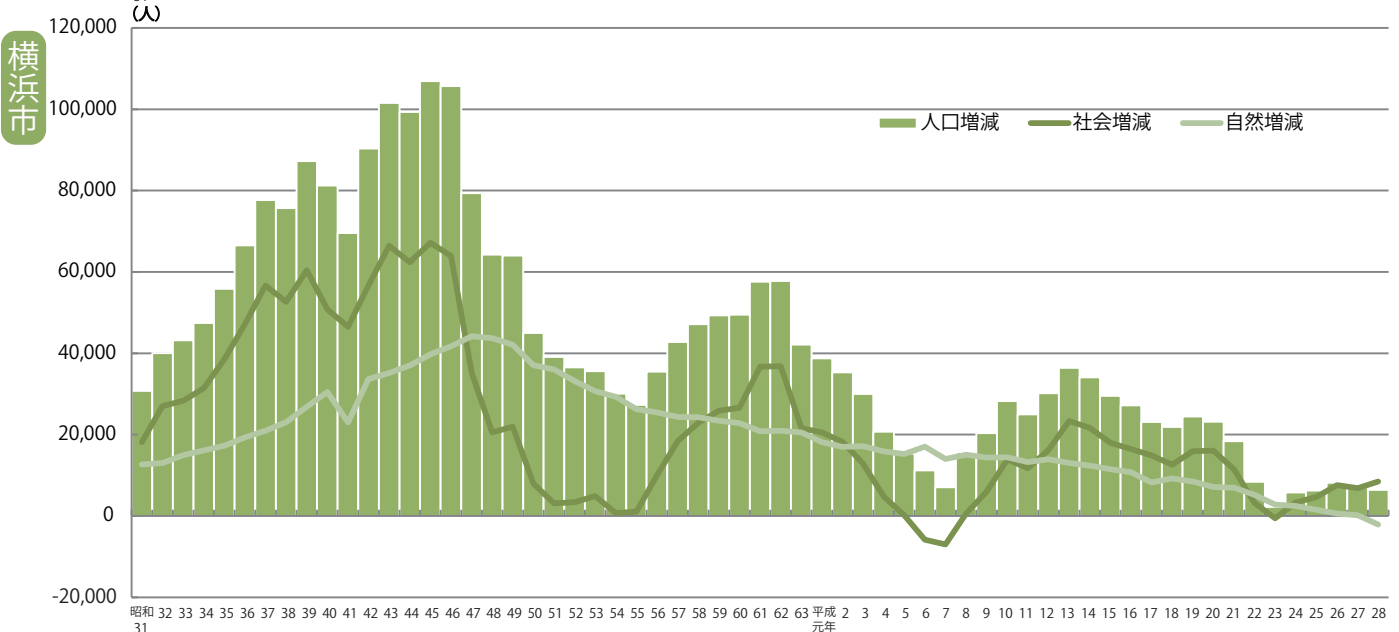
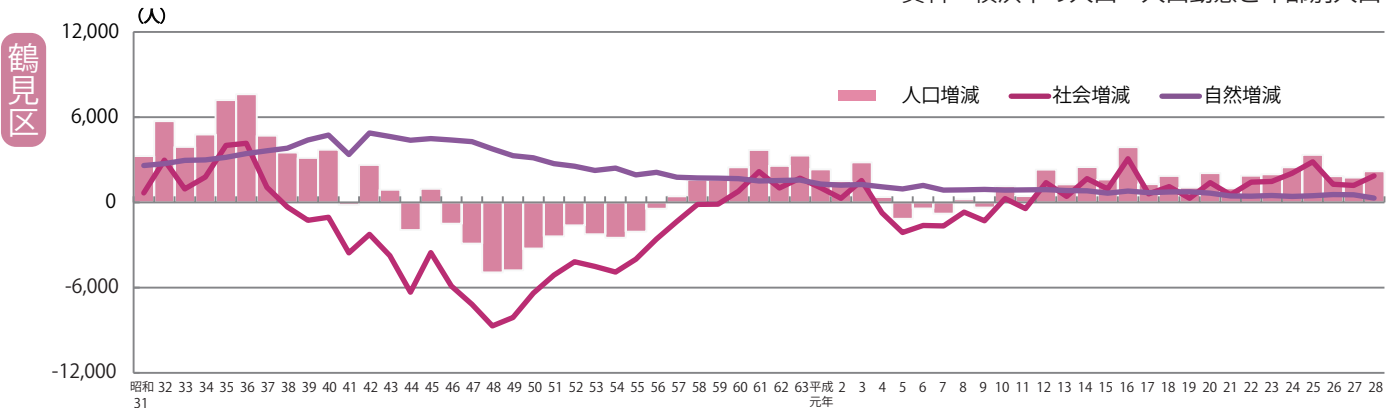
平成29年5月1日現在、鶴見区の人口は288,313人であり、世帯数は135,685世帯となっています。



## ● 人口増減・社会増減・自然増減の推移

鶴見区の人口は、増減を繰り返しながら推移しています。昭和40年代後半に、転出者数が転入者数を上回ったこと（社会減）により、人口が大きく減少した時期がありました。その後、昭和50年代後半から人口が増加したものの、いわゆるバブル期を経て再び社会減の傾向が続きましたが、平成12年からは社会増に転じ、近年は比較的安定した数で増加しています。

資料：横浜市の人口 人口動態と年齢別人口

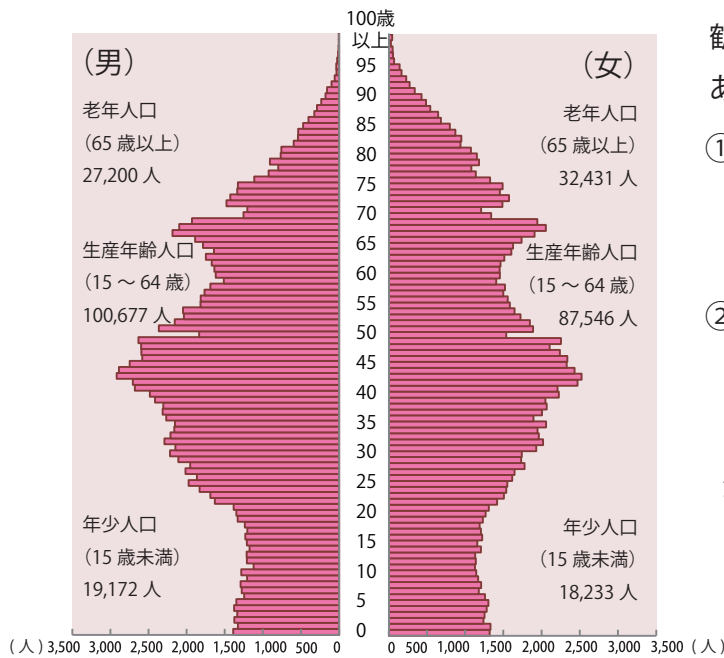




## 2 年齢別の人口

### ● 人口ピラミッド

鶴見区人口ピラミッド (H29.1.1 現在)

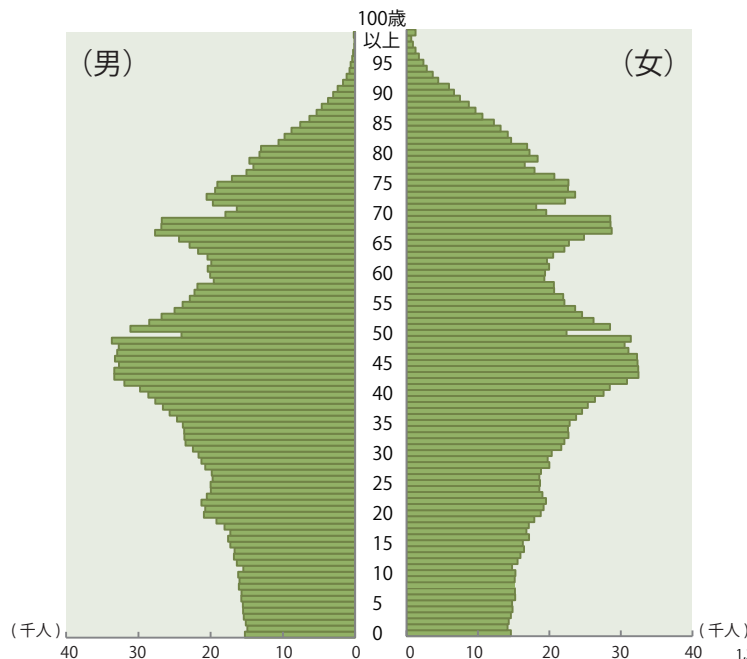


鶴見区の人口ピラミッドには大きく2つの特徴があります。

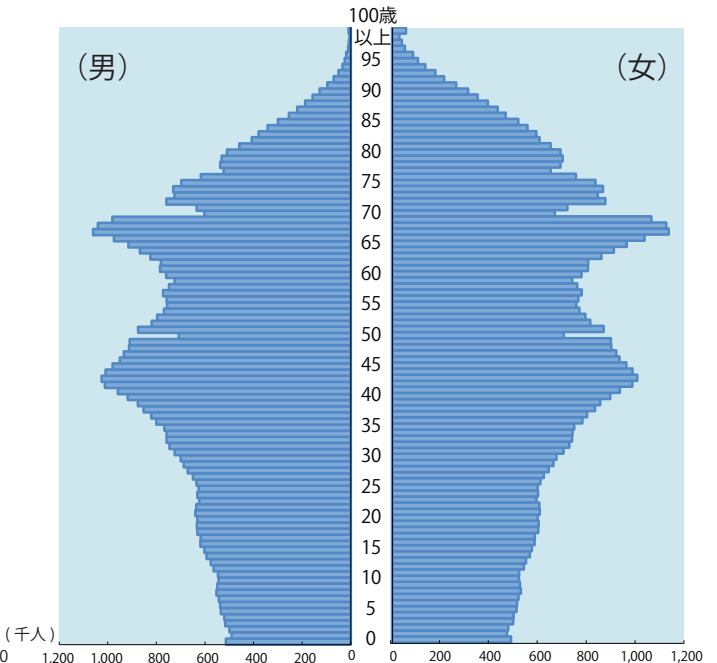
- ① 40歳代の第二次ベビーブーム時代の人口が、60歳代後半の第一次ベビーブーム時代の人口より大きな山を描いています。
- ② 0～10歳までの人口が増加しており、ピラミッドの裾野が全国及び横浜市のピラミッドに比べて広がっています。

資料：横浜市の人口 年齢（各歳・5歳階級）別男女別人口  
総務省統計局 年齢（各歳），男女別人口及び人口性比  
総人口，日本人人口（平成28年10月1日現在）

横浜市人口ピラミッド (H29.1.1 現在)



全国人口ピラミッド (H28.10.1 現在)



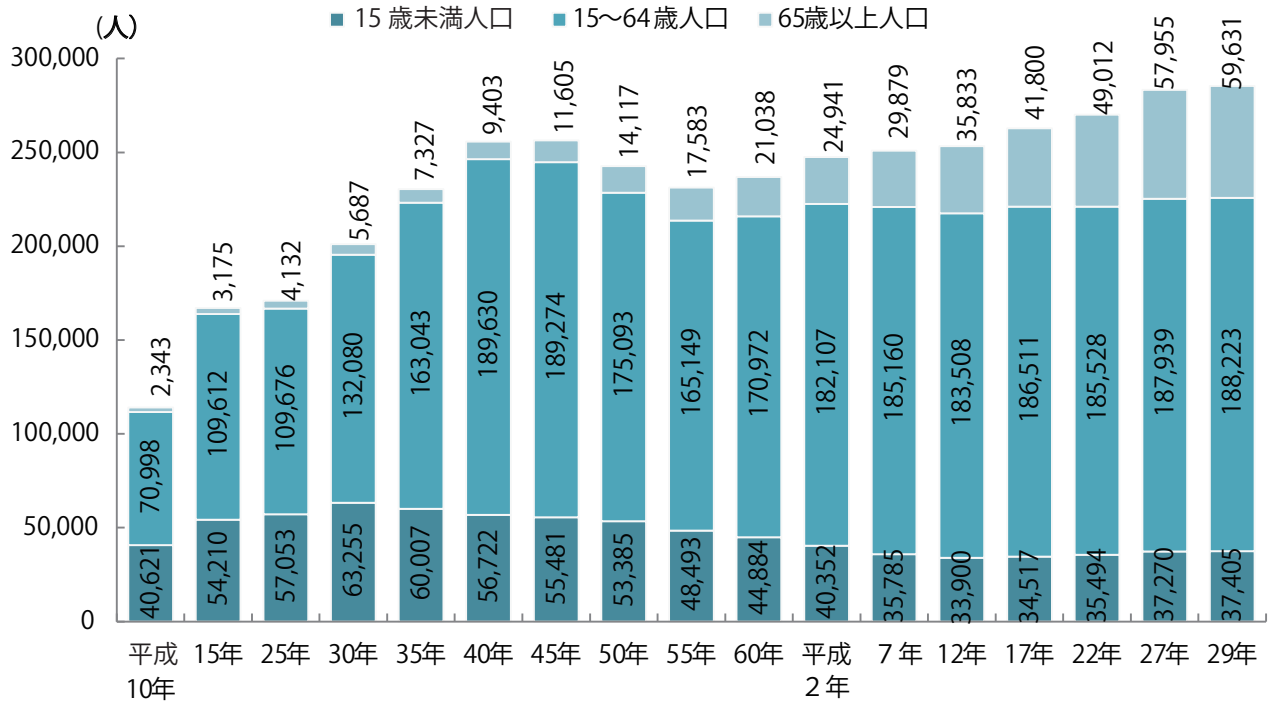
### ● 行政区別平均年齢 (H29.1.1 現在)

資料：横浜市の人口 年齢（各歳・5歳階級）別男女別人口

平均年齢が低い区	
1位	都筑区 (41.22歳)
2位	港北区 (43.02歳)
3位	青葉区 (43.61歳)
4位	鶴見区 (43.62歳)

平均年齢が高い区	
1位	栄区 (47.77歳)
2位	旭区 (47.62歳)
3位	港南区 (47.18歳)
4位	南区 (47.11歳)

## ● 年齢3区分別人口の推移



資料：国勢調査（各年10月1日現在） ※平成29年は1月1日現在推計人口

年齢3区分別人口をみると、老年人口の増加が進んでおり、平成12年に15歳未満の年少人口と、65歳以上の老年人口の数が逆転したあと、近年その差が広がる傾向にあります。また、15歳未満の年少人口は、昭和30年以降減少していましたが、平成12年以降は、微増しています。



65歳以上の老年人口が少しずつ増えているね。



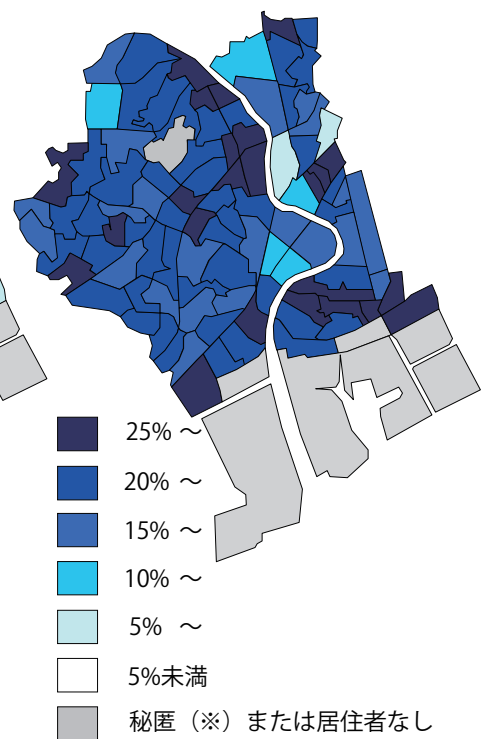
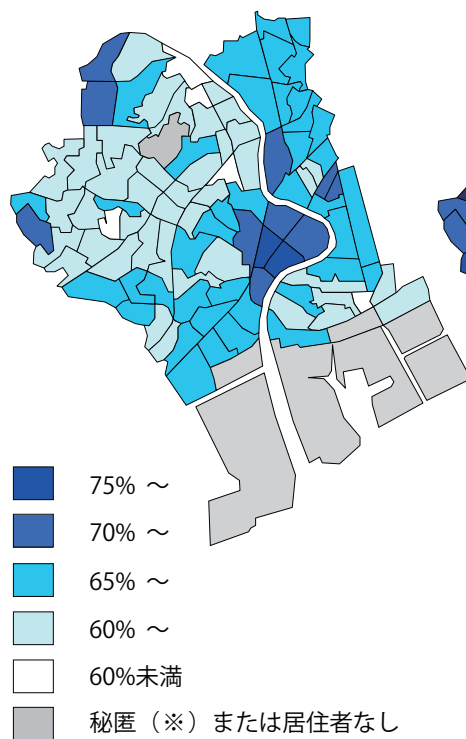
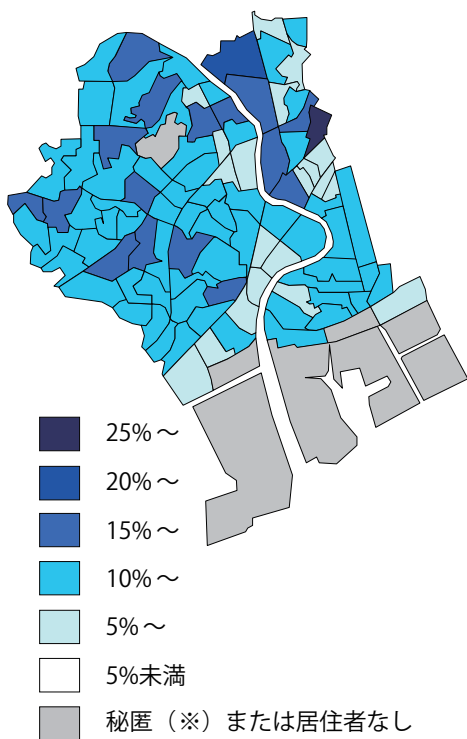
## 地図で見る鶴見 ～年少・生産年齢・老年の各人口比率～

資料：住民基本台帳（平成29年3月31日現在）※大黒ふ頭、扇島は省略しています

年少人口（15歳未満）人口比率

生産年齢人口（15～64歳）人口比率

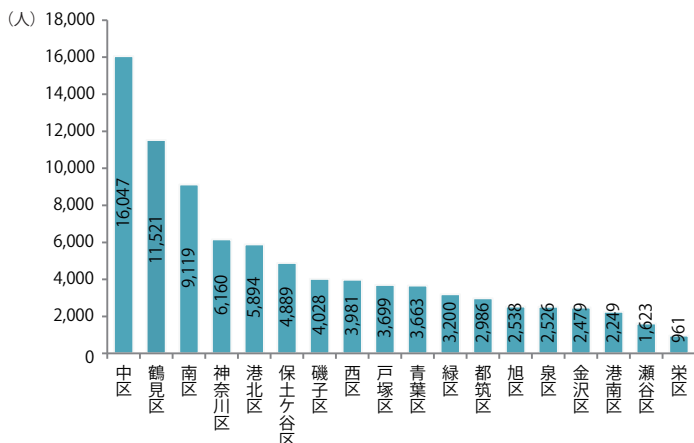
老年人口（65歳以上）人口比率



（※）データを示すことで個人が特定される恐れのあるものは「秘匿」としています。

### 3 外国人住民

#### 区別外国人住民



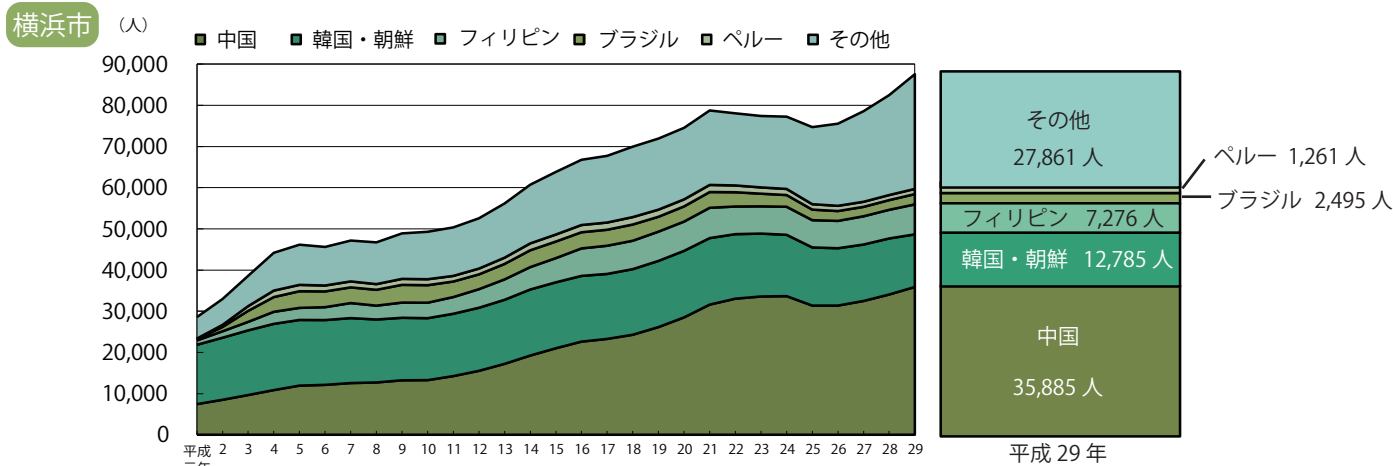
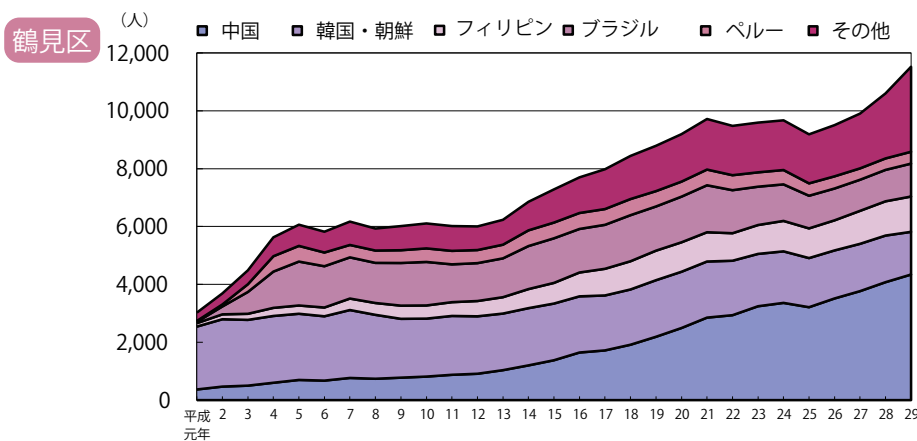
資料：住民基本台帳 外国人人口（平成 29 年 3 月 31 日現在）

平成 29 年 3 月 31 日現在の鶴見区の外国人住民数は 11,521 人です。（前年より 920 人増加）これは中区に続いて市内 2 番目の多さとなっています。国籍別にみると、中国、韓国・朝鮮、フィリピン、ブラジルの順に多くなっています。横浜市全体と比べると、鶴見区はブラジルやペルー国籍の構成比が大きいことがわかります。

鶴見区は、外国人児童数（※）が 310 人で、南区に次いで二番目に多いよ！  
 ※ 市立小学校に通う外国人児童の数  
 資料：横浜市教育委員会「市立学校現況」（平成 28 年 5 月 1 日現在）



#### 国籍別外国人住民数の推移



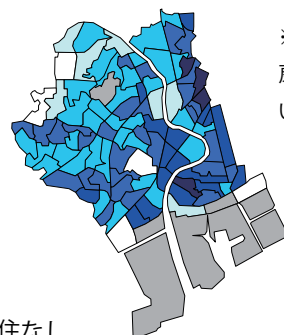
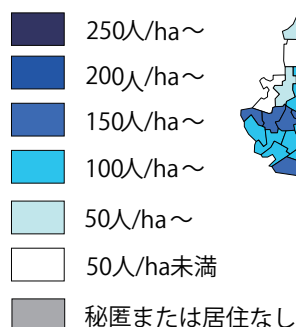
資料：住民基本台帳 外国人人口（各年 3 月末現在）



#### 地図で見る鶴見 ～人口密度～

鶴見区内で人口密度の高い町は、尻手一丁目・三丁目、本町通、市場上町などです。また、鶴見駅周辺と、川崎市との市境の人口密度が高い傾向にあります。

資料：住民基本台帳（平成 29 年 3 月 31 日現在）

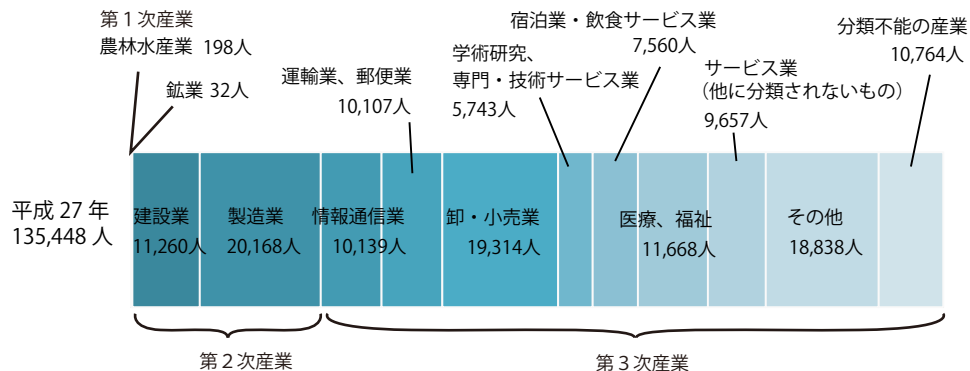


※大黒ふ頭・扇島は省略しています。

## 4 就業状況・労働力人口・労働力率

### 就業状況

鶴見区就業者は、第3次産業、第2次産業、第1次産業の順に多く、産業大分類別にみると、製造業の就業者数が20,168人と最も多くなっています。

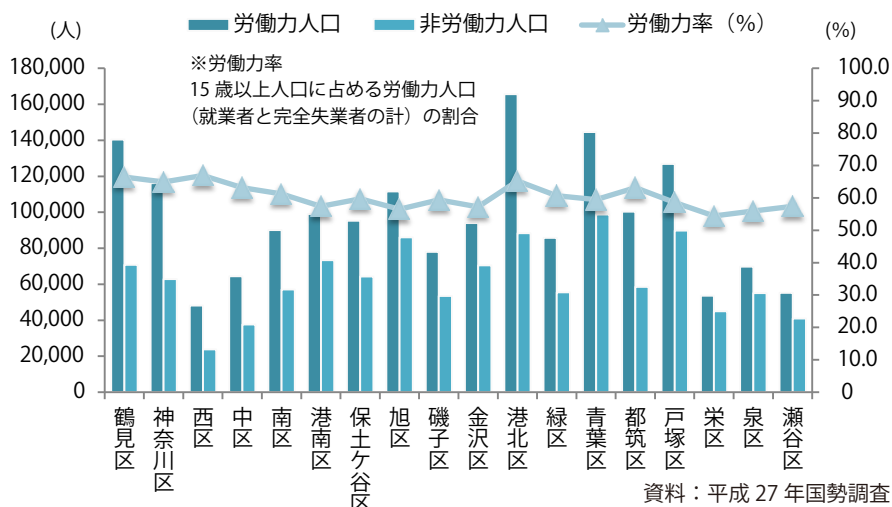


### 労働力人口・労働力率

鶴見区の労働力人口は、140,346人で、行政区別にみると、港北区、青葉区に次いで、3番目の多さです。鶴見区の労働力率は66.5%で、18区中2位となっています。



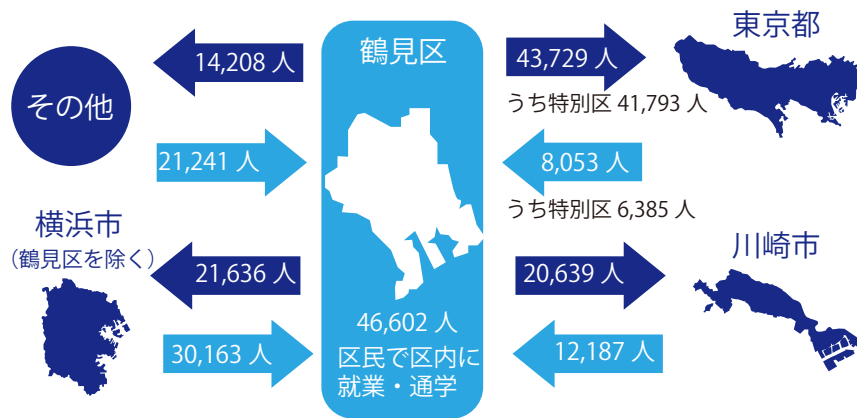
18区の中で労働力率が一番高いのは、西区(66.9%)。鶴見区との差は、0.4%だよ!



## 5 流出人口・流入人口・昼夜間人口

### 流出人口・流入人口

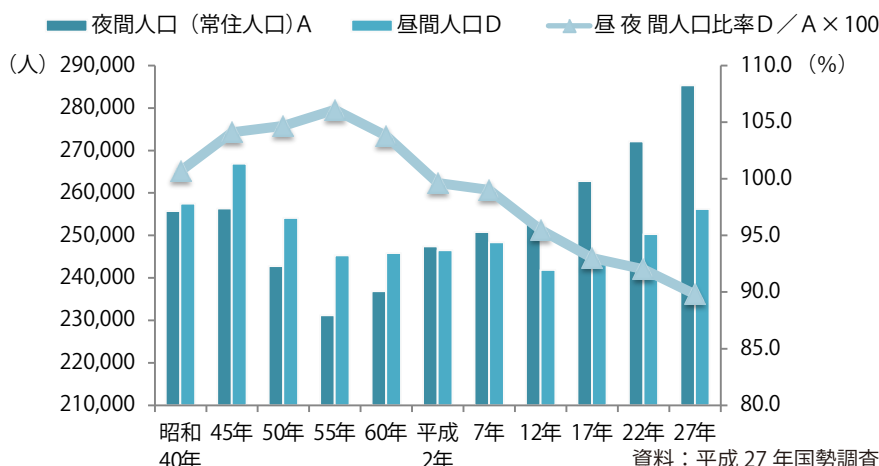
鶴見区に常住(居住)する15歳以上の就業者及び通学者数は146,814人で、そのうち、区内で就業・通学する者は46,602人、自市内他区へ就業・通学する者は21,636人となっています。また、横浜市以外では、鶴見区からは東京都への流出が43,729人と最も多くなっています。



### 昼夜間人口

平成27年の鶴見区の昼間人口は256,228人、夜間人口は285,356人であり、平成2年以降、夜間人口が昼間人口を上回っています。

また、昼夜間人口比率は89.8%で昭和55年の106.1%をピークに減少を続けています。

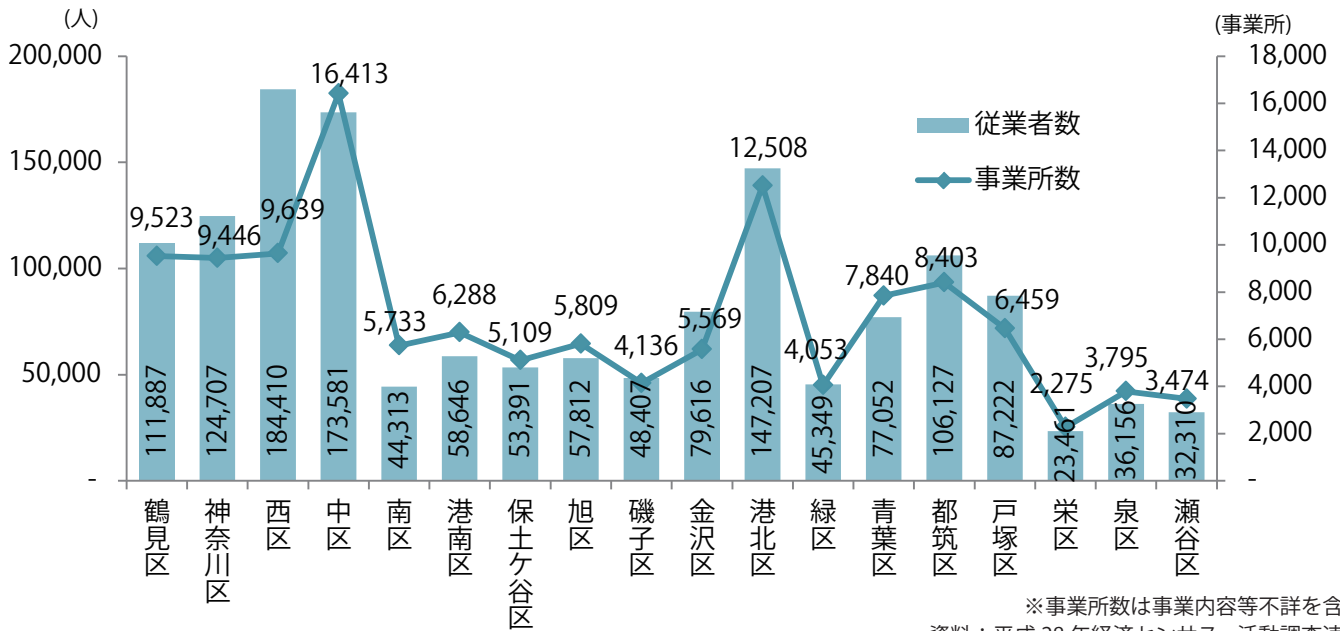




1 事業所

● 区別事業所数・従業者数

平成 28 年の鶴見区の事業所数は、9,523 事業所となっており、18 区の中では、中区（16,413 事業所）、港北区（12,508 事業所）、西区（9,639 事業所）に続き、4 番目の多さとなっています。従業者数は、111,887 人で、西区、中区、港北区、神奈川区に続いて 5 番目に多くなっています。



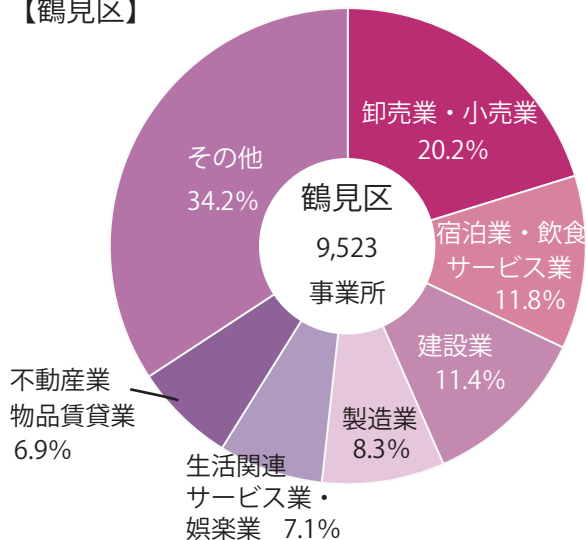
● 事業所数の産業大分類別構成比（鶴見区・横浜市）

鶴見区の実業所数の構成比は、大きい順に、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業、建設業、製造業となっています。

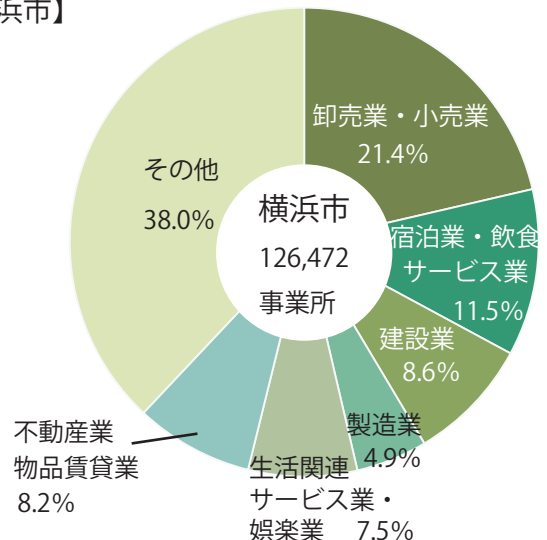
横浜市は、製造業が 6,220 事業所で、構成比では 4.9%であるのに対し、鶴見区の製造業は 793 事業所で 8.3%を占めています。横浜市の製造業の実業所の約 8 分の 1 が鶴見区にあり、鶴見区は製造業の割合が高いことがわかります。

※事業所数は事業内容等不詳を含む  
資料：平成 28 年経済センサス - 活動調査速報

【鶴見区】



【横浜市】



## 2 商業

横浜市と鶴見区の年間販売額構成比を比較してみると、鶴見区は、卸売業では「建築材料・鉱物・金属材料」等の割合が高くなっています。また、小売業では「飲食料品」の割合が高くなっています。

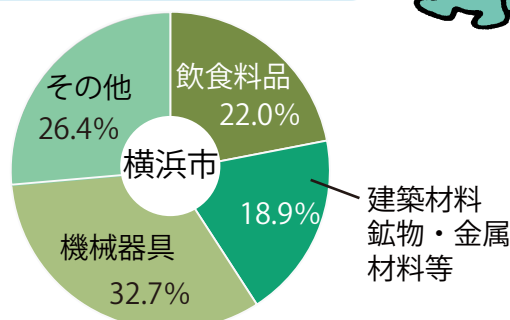
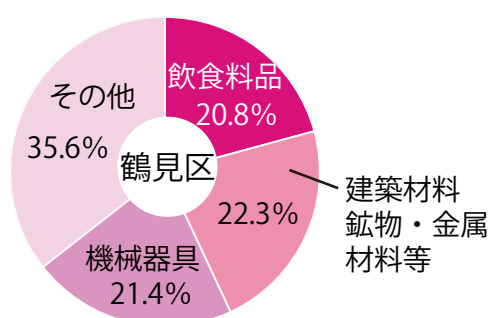
年間商品販売額は約 3,720 億円であり、18 区中 8 位となっています。

### 産業中分類別年間商品販売額構成比

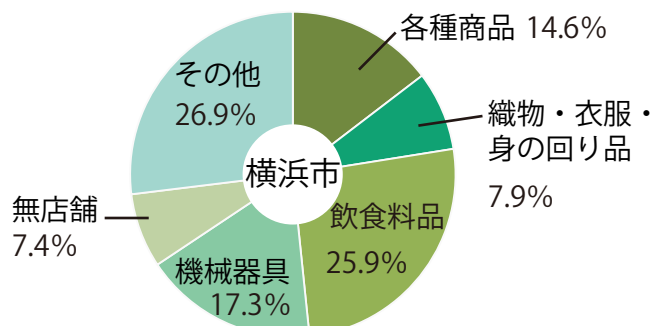
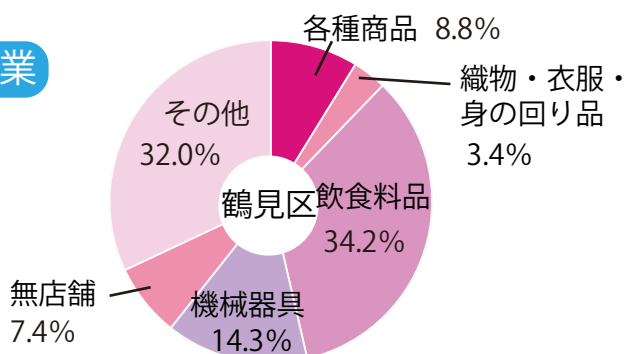
鶴見区の商店数は、中区、港北区、西区、神奈川区について 18 区中 5 番目の多さとなっています。



#### 卸売業



#### 小売業



資料：平成 26 年商業統計調査

### 区別商店数・従業員数・年間商品販売額

区別	商店数			従業員数 (人)	年間商品販売額 (百万円)	年間商品販売額順位
	総数	卸売業	小売業			
横浜市	18,925	4,708	14,217	203,816	8,579,630	
鶴見区	1,326	324	1,002	11,872	372,072	8位
神奈川区	1,386	510	876	16,249	991,192	3位
西区	1,653	364	1,289	19,893	1,399,605	1位
中区	1,971	552	1,419	17,045	957,444	4位
南区	969	228	741	6,638	139,302	17位
港南区	957	148	809	10,956	263,212	11位
保土ヶ谷区	785	168	617	6,820	296,236	10位
旭区	863	159	704	8,709	222,402	12位
磯子区	634	129	505	6,265	170,584	15位
金沢区	954	298	656	10,323	407,496	7位
港北区	1,741	555	1,186	21,823	1,300,907	2位
緑区	630	138	492	7,171	185,767	13位
青葉区	1,203	200	1,003	12,880	346,823	9位
都筑区	1,287	390	897	17,536	655,272	5位
戸塚区	1,073	202	871	14,265	471,320	6位
栄区	362	88	274	3,424	81,302	18位
泉区	535	103	432	6,191	144,742	16位
瀬谷区	596	152	444	5,756	173,955	14位

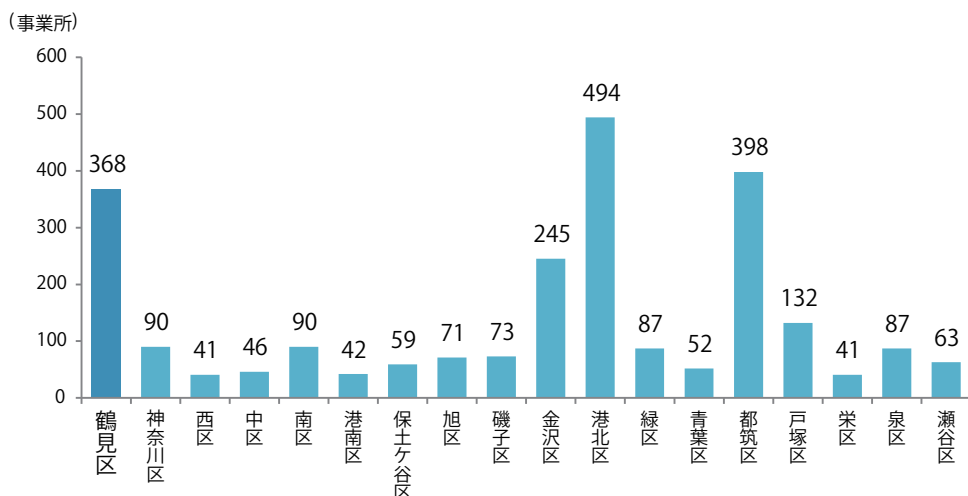
資料：平成 26 年商業統計調査

### 3 工業

鶴見区は、京浜工業地帯の中核として日本の重工業を支えてきました。事業所数については、昭和 48 年の 1,096 事業所をピークに、平成 26 年には 368 事業所とピーク時の約 3 割に減少し、また従業員数についても、60,000 人を上回っていた昭和 30 年代後半と比べて、約 4 分の 1 となりましたが、現在でも、横浜市内で重要な位置を占めています。

資料：平成 26 年工業統計調査（従業者 4 人以上の事業所対象）

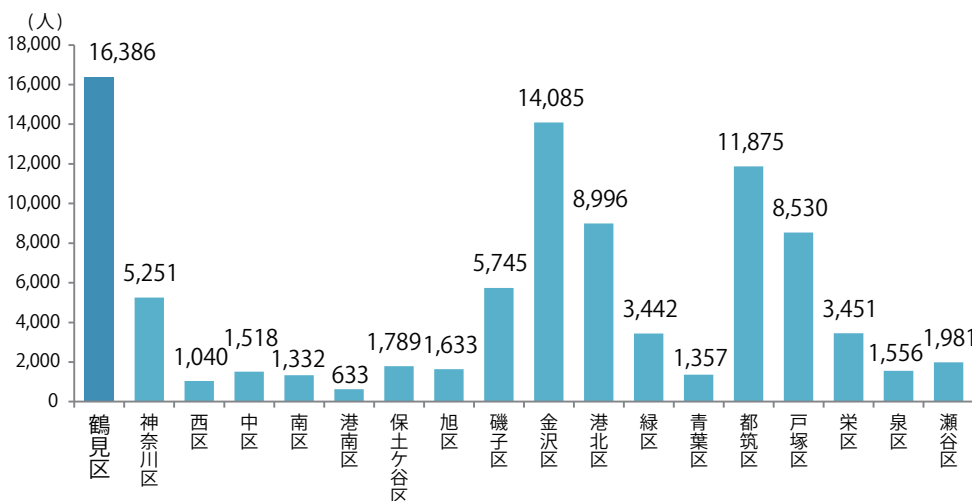
#### ● 区別事業所数



鶴見区内には 368 の事業所があって、港北区、都筑区に続いて 3 番目に多いよ！



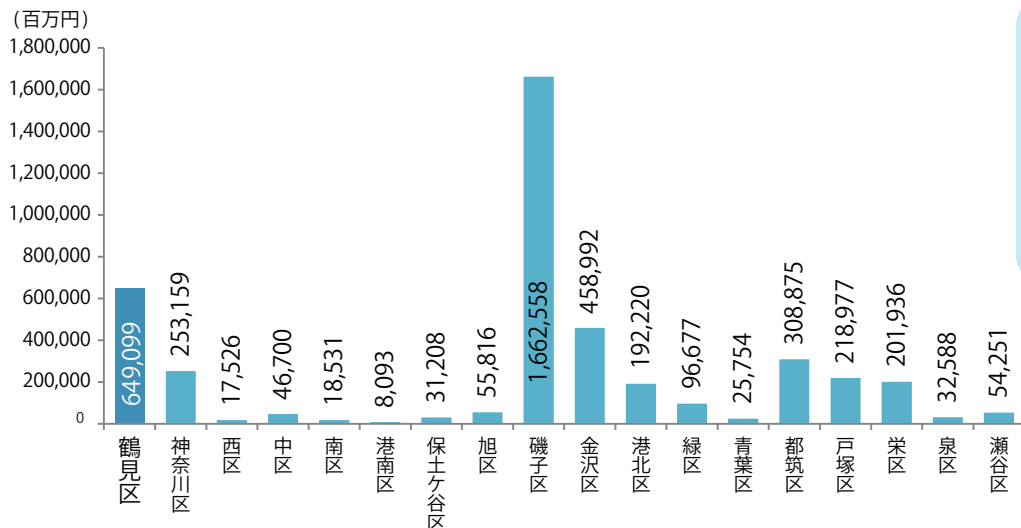
#### ● 区別従業者数



鶴見区の従業者数は 16,386 人で、18 区中、1 番多いよ！



#### ● 区別製造品出荷額等



製造品出荷額等については、18 区中第 2 位！鶴見区の製造品出荷額等は、約 6,500 億円だよ！





# 1 住宅

## ● 住宅の建て方別の世帯数 (単位:世帯)

	鶴見区	横浜市
一戸建	42,120	607,761
長屋建	1,118	23,214
共同住宅	84,899	971,904
その他	237	2,602
合計	128,374	1,605,481

資料：平成 27 年国勢調査

鶴見区で持ち家に住む一般世帯は 58.6% だよ!



住宅の建て方を見ると、共同住宅が最も多く 84,899 世帯 (住宅に住む一般世帯数に占める割合 66.1%) と約 3 分の 2 の世帯が共同住宅に住んでいることとなります。次いで一戸建てが 42,120 世帯 (32.8%) となっています。

共同住宅に住む世帯の割合は、横浜市全体の 60.5% (971,904 世帯) と比べ 5.6 ポイントも上回っています。

## COLUMN 区の用途別水道使用量

資料：水道局及び横浜市統計書

平成 28 年度の鶴見区の水道使用量は、約 2,913 万<sup>3</sup>でした。そのうち、公衆浴場用が約 13 万<sup>3</sup>で、横浜市全体の公衆浴場用水道使用量 (約 80 万<sup>3</sup>) の約 16% を占めています。

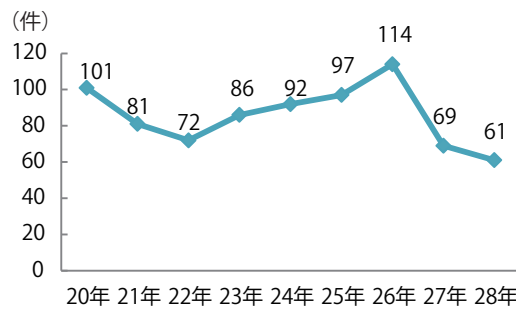
なお、鶴見区の平成 27 年末の公衆浴場数は 34 で、18 区中、中区に次いで 2 番目の多さとなっています。

# 2 消防

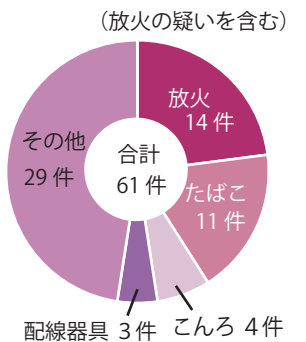
平成 28 年の火災発生件数は 61 件で、2 年連続で前年を下回りました。火災の原因としては、「放火 (放火の疑いを含む)」が 14 件で一番多く、次いで「たばこ」が 11 件、「こんろ」が 4 件となっています。

また、平成 28 年の救急車の出動件数は、14,415 件であり、出動理由は、急病が全体の 66% 以上を占めています。

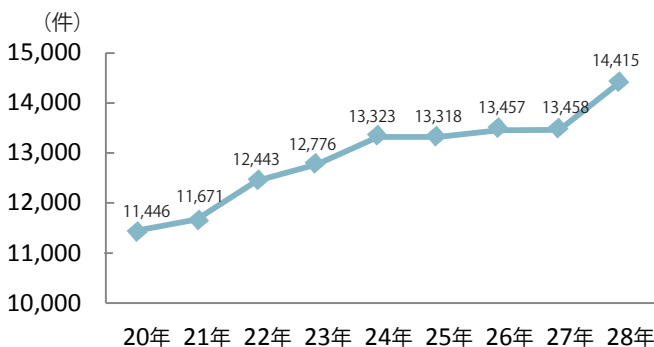
## ● 火災発生件数の推移



## ● 火災原因別件数



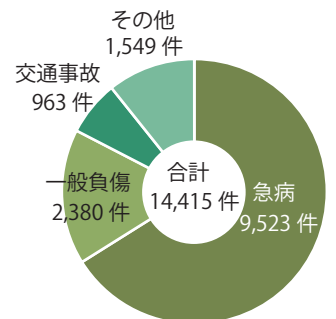
## ● 救急車出動件数の推移



救急車の出動件数が増え過ぎると、空白地域 (救急車が多数同時出場することで、その地域に救急車がない状態) の増加につながり、傷病者の救命率が低下する恐れがあるよ



## ● 救急車出動理由



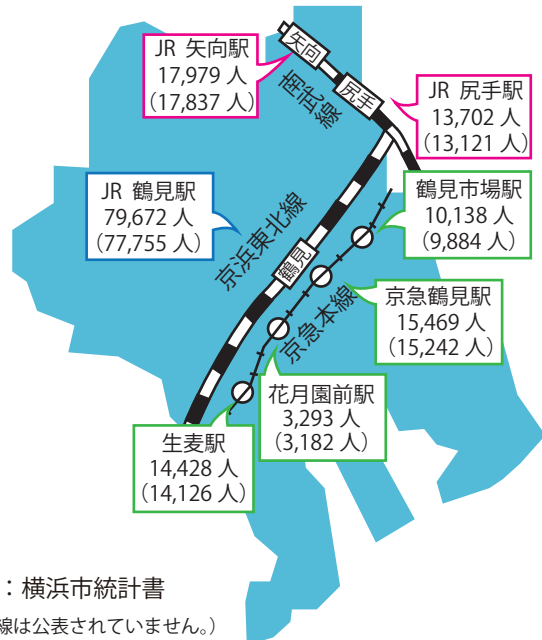
資料：平成 28 年 鶴見消防署



### 3 交通

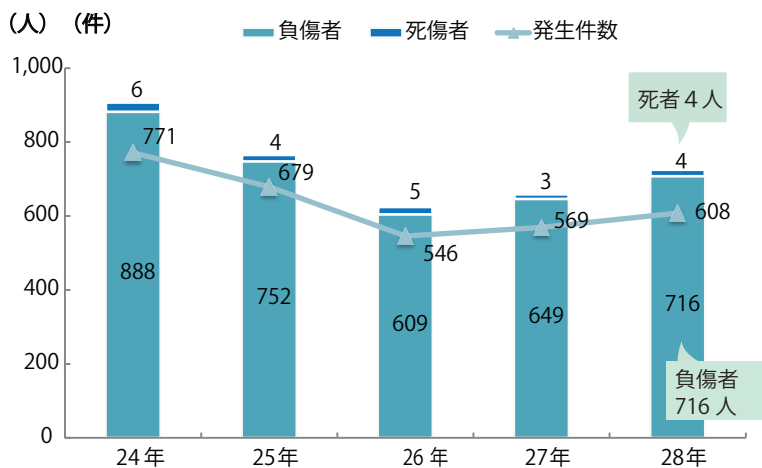
#### ● 区内駅別一日平均乗車人員

JRは平成27年度 京急本線は平成28年度  
※( )内は前年度



資料：横浜市統計書  
(鶴見線は公表されていません。)

#### ● 交通事故発生件数と死者・負傷者の推移



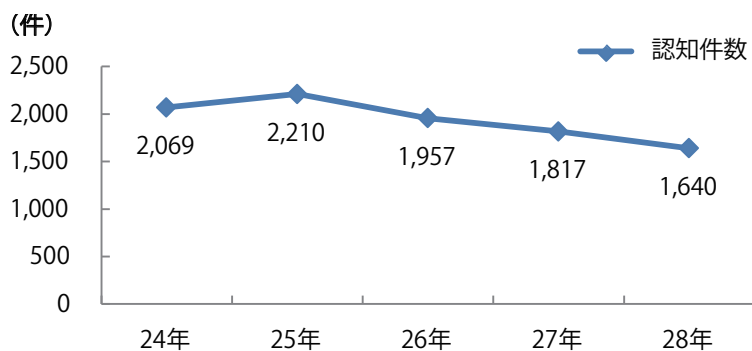
資料：鶴見警察署

平成28年中の交通事故による負傷者数は716人、死者数は4人でした。また、交通事故発生件数は608件であり、いずれも前年より増加しました。

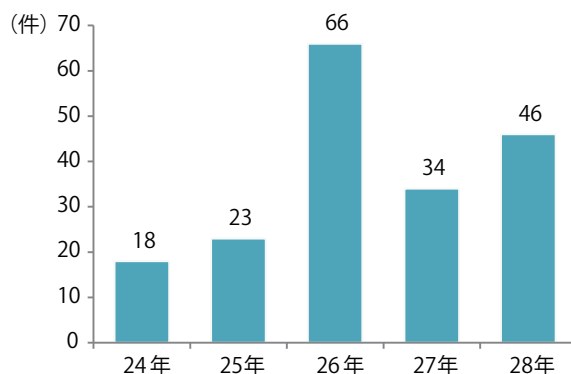
### 4 犯罪

#### ● 犯罪（刑法犯）認知件数の推移

平成28年中の鶴見署の犯罪認知件数は1,640件で、平成25年以降減少を続けています。



#### ● 振り込め詐欺件数推移



犯罪件数は昨年と比べて177件減少し、横浜市全体では2,814件減少したよ



#### ● 犯罪（刑法犯）の種類別認知件数（平成28年）

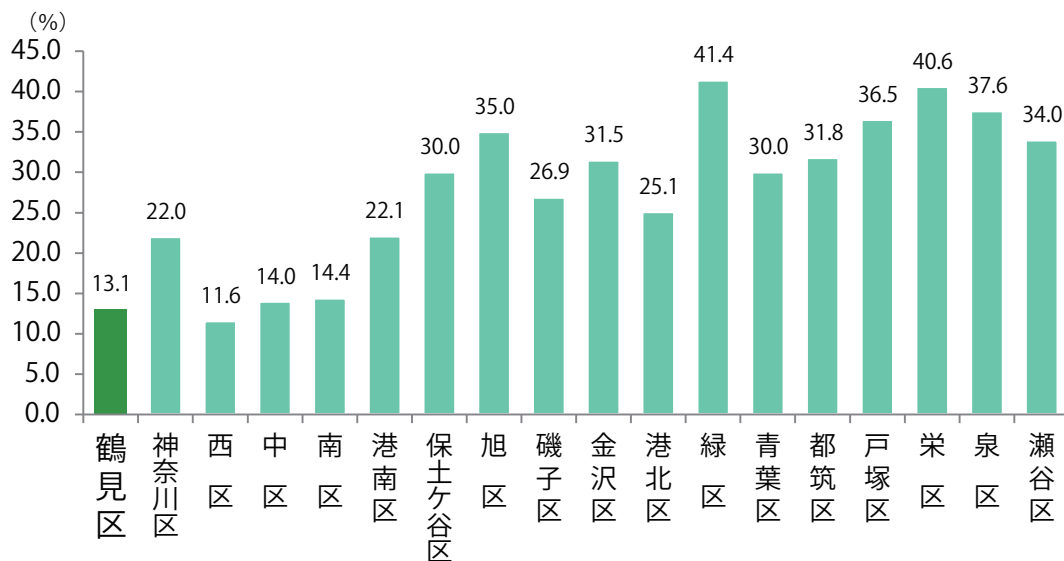
(単位：件)

	凶悪犯	粗暴犯	窃盗犯		知能犯	風俗犯	その他の刑法犯	総数
			自転車	その他				
鶴見署	7	124	485	740	88	7	189	1,640
横浜市	115	1,216	5,020	10,651	1,176	342	2,334	20,854

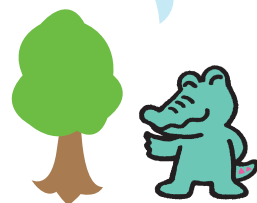
資料：鶴見警察署

## 5 環境

### ● 緑被率（平成 26 年調査）

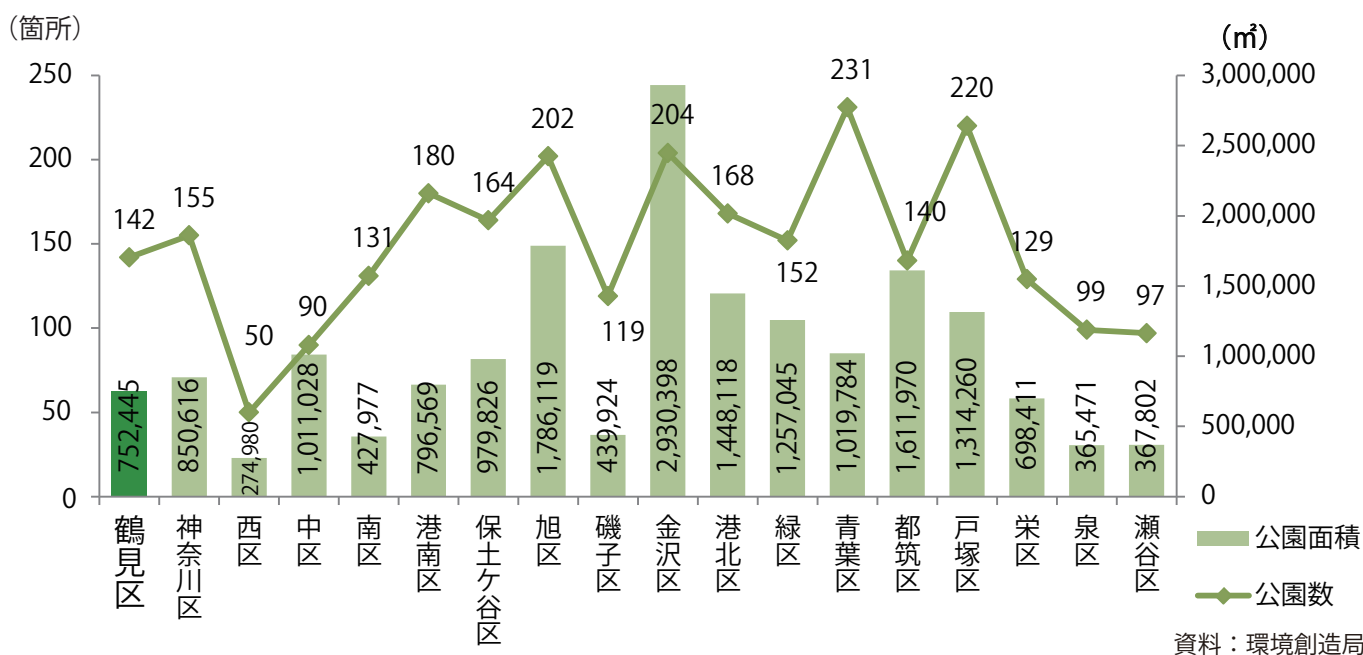


鶴見区の緑被率は、18区中17位です。  
鶴見区の緑被率は減少傾向にあります。



資料：横浜市統計書

### ● 区別公園数・公園面積（県立公園含む）



資料：環境創造局

鶴見区には、平成 29 年 4 月 1 日現在、142 箇所の公園があり、その面積は 752,445 ㎡となっています。そのうち、県立三ツ池公園が、区内の公園面積の約 4 割を占めています。

### COLUMN 🍷 鶴見区マスコットはなぜワニなの？

鶴見区マスコットキャラクターの「ワックン」は、区制 60 周年(昭和 62 年)を記念して昭和 63 年 1 月に誕生しました。

ワニが選ばれたのは、鶴見区の形がワニの顔の形に似ていること、「産業の街・鶴見」の力強いイメージにぴったりなことなどが主な理由です。

僕の横顔に似てるでしょ？



※緑色の部分が鶴見区

## 6 区民フェスティバル

鶴見区では、毎年、春（三ツ池公園（文化・環境）フェスティバル）・夏（鶴見川サマーフェスティバル）・秋（つるみ臨海フェスティバル）の3回、区民フェスティバルを開催しています。それぞれのフェスティバルは、会場周辺の地区連合町内会や地元企業等により組織された実行委員会の企画運営により、開催されています。

### ● 三ツ池公園（文化・環境）フェスティバル

多数の区民ボランティア参加のもと、ステージでの各団体の発表や、フリーマーケット、中学生ボランティアによる牛乳パックの回収などを通じて、「文化と環境」に関心を持ち、積極的に理解することを目的に開催しています。

また、鶴見区の友好交流都市である、福島県西会津町や棚倉町、石川県輪島市の特産物の販売なども行われています。



西会津町 鶴見区 棚倉町  
「こゆりちゃん」「ワックん」「たなちゃん」

**会場** 県立三ツ池公園 **日時** 平成29年5月20日（土）

### ● 鶴見川サマーフェスティバル

区民の“ふるさと意識”を醸成するとともに、住民相互の連帯と親睦を深めることを目的に、多くの区民ボランティアに支えられ、開催しています。

川のイベント（Eボート体験、クルーズ）、模擬店・PRブース、鶴見川コンサート、鶴見川花火大会など、1日中楽しめるイベントとなっています。特に、夏の夜空を彩る花火は、鶴見川の夏の風物詩として、区民の皆様に親しまれています。



**会場** 鶴見川および佃野公園周辺 **日時** 平成29年8月19日（土）（荒天時は8月20日（日）に順延）

### ● つるみ臨海フェスティバル

「鶴見大好き 私のふるさと～みんなで創ろう つるみ臨海部」をテーマとして、臨海部に親しみながら誰もが楽しめるふれあいの場を提供し、子どもから高齢者まで、安心して暮らしていけるあたたかな地域づくりを目的に開催しています。ステージでは、地元団体による楽器演奏やサンバショー等が披露され、出店ブースには、大分県佐伯市鶴見から「寿司トラック」がやってきます。

また、毎年恒例のお楽しみ抽選会も行われ、会場は大いに賑わいます。



団体によるステージイベント（サンバショー）

**会場** 入船公園 **日時** 平成29年10月21日（土）  
（荒天時は10月22日（日）に順延）

この3つ以外にも、区内ではさまざまなお祭りやイベントが行われているよ！



※各区民フェスティバルの日は、平成29年7月時点での実施日及び予定日です。

資料：鶴見区地域振興課

## 7 市税

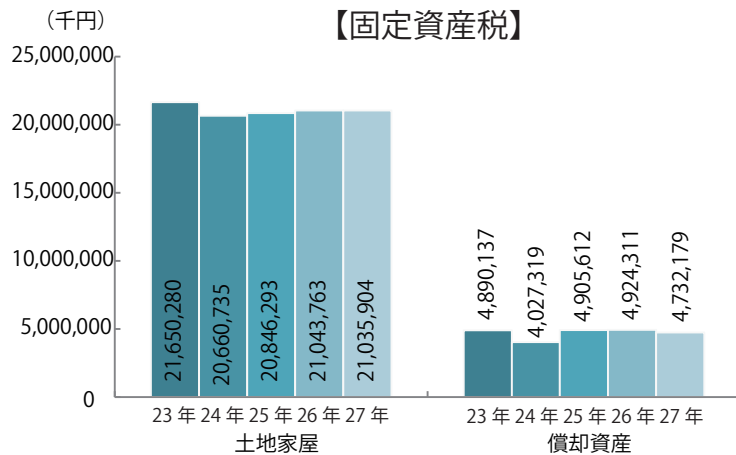
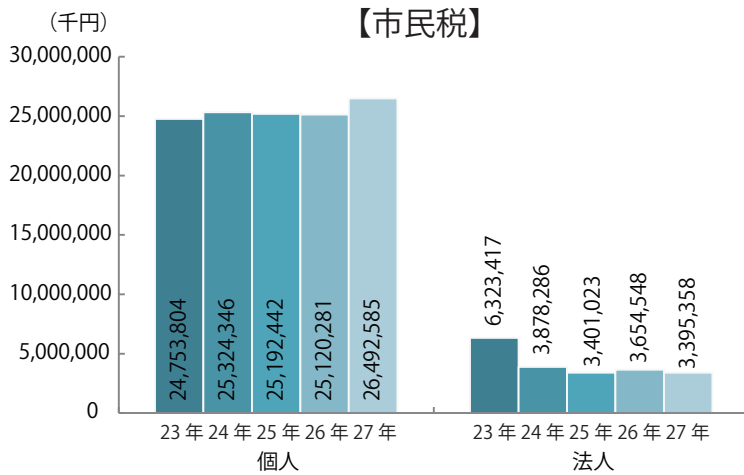
横浜市の平成 27 年度の市税収入は、約 7,190 億円で、前年度に比べ約 10 億円の減収。税別では、

①「個人市民税」は、給与所得納税者数の増加などにより増収。

②「固定資産税・都市計画税」は、家屋の評価額の下落などによる減収。

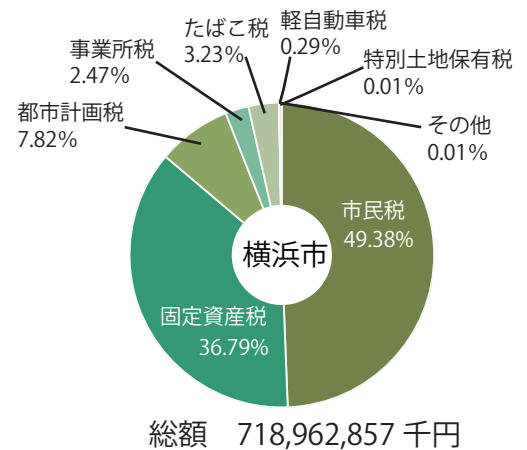
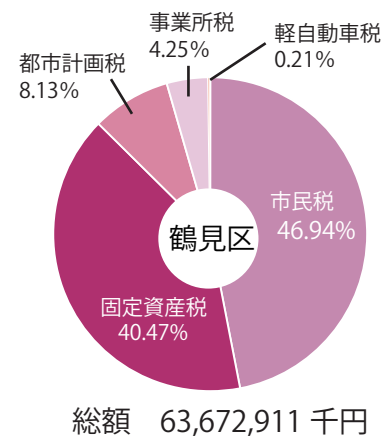
そのほか、平成 26 年度に実施された一部国税化による税率引下げの影響により法人市民税が減収となっています。なお、鶴見区の平成 27 年度の市税収入は約 637 億円で、市全体の約 8.86%を占めています。

### ● 鶴見区税別収入の推移



資料：平成 27 年度市税決算額調

### ● 市税収入の構成比（平成 27 年度）



資料：平成 27 年度市税決算額調

## 8 戸籍

### ● 戸籍数（本籍）（平成 29 年 3 月 31 日現在）

横浜市合計 1,266,111 戸籍 (単位：戸籍)

1位	2位	3位
港北区 106,455	鶴見区 102,789	神奈川区 89,174

### ● 住民登録世帯数（平成 29 年 3 月 31 日現在）

横浜市合計 1,757,715 世帯 (単位：世帯)

1位	2位	3位
港北区 166,893	鶴見区 143,082	青葉区 132,646

鶴見区の戸籍数（本籍）は平成 29 年 3 月 31 日現在 102,789 戸籍、また、区内に住民登録をしている世帯の数は、143,082 世帯で、それぞれ港北区に次いで 18 区中第 2 位の多さとなっています。 資料：鶴見区戸籍課

前年比べて、戸籍数、住民登録世帯数ともに増加しているよ！

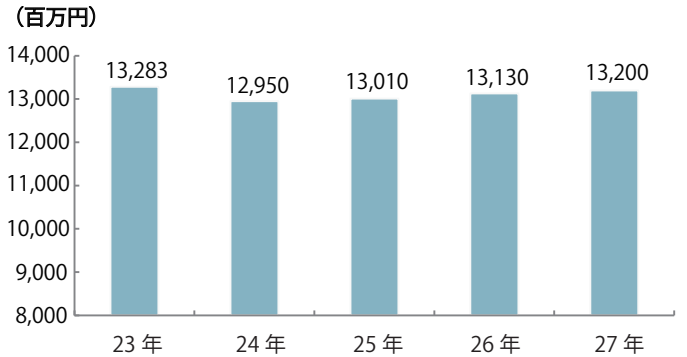
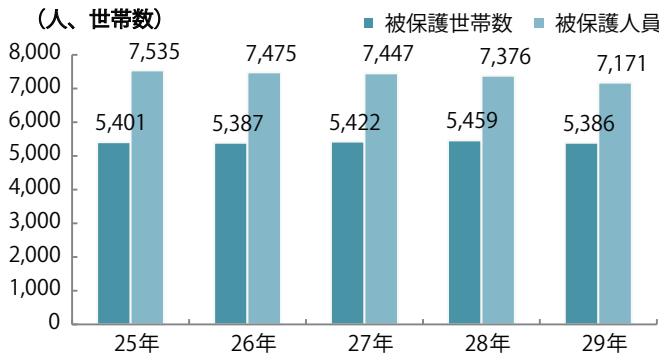


## 9 生活保護

平成 29 年 4 月現在の鶴見区において、生活保護を受給している世帯は 5,386 世帯、人員は 7,171 人で、それぞれ中区、南区に次いで 18 区中 3 位となっています。

最近の鶴見区の動向としては、被保護世帯数は横ばいの状態となっています。しかし、高齢化の影響により、高齢者世帯（65 歳以上）が 2,842 世帯と、平成 26 年度から約 300 世帯増加しています。

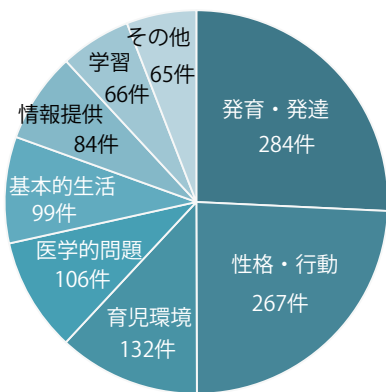
### ● 生活保護人員・世帯数の推移（各年 4 月現在） ● 生活保護費の推移（各年度）



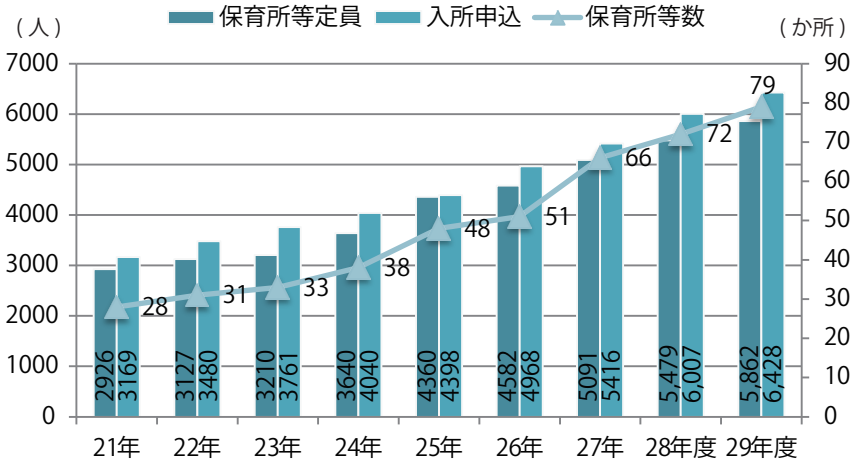
資料：鶴見区生活支援課

## 10 子育て

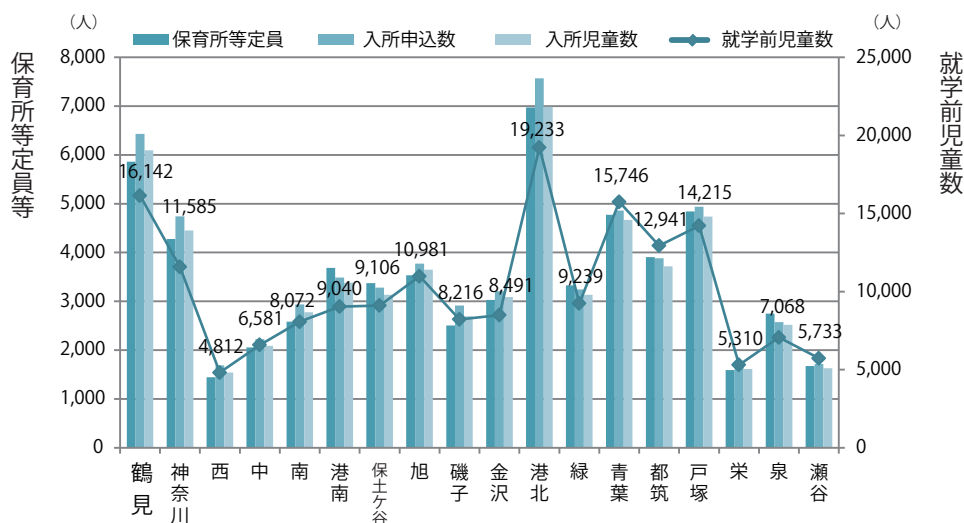
### ● 子ども家庭支援相談状況（平成 28 年度延べ件数）



### ● 鶴見区の保育所等利用状況について（各年 4 月 1 日）



### ● 18 区の就学前児童数と保育所等の状況（平成 29 年 4 月 1 日現在）



鶴見区は就学前児童数が 18 区中 2 番目に多く、保育所等の定員数は 2 番目に多いよ。でも保育所の整備がまだまだ必要な地域もあるよ。



資料：鶴見区子ども家庭支援課

※保育所等：平成 27 年 4 月から保育所・幼保連携型認定こども園のほか、地域型保育（家庭的保育、小規模保育、事業所内保育）を含む。

# 11 健康

## ● 主な死因の状況

がん、心疾患、脳血管疾患などの生活習慣病による死因が約6割を占めています。

主な死因の死亡数（単位：人）

	全死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の事故	老衰	自殺	肝疾患	慢性閉塞性肺疾患	腎不全	その他
25年	2,205	666	322	234	166	87	122	58	41	24	33	452
26年	2,252	686	332	194	193	69	136	43	46	37	44	472
27年	2,241	737	352	168	135	73	165	37	42	34	34	464

## ● 平均寿命

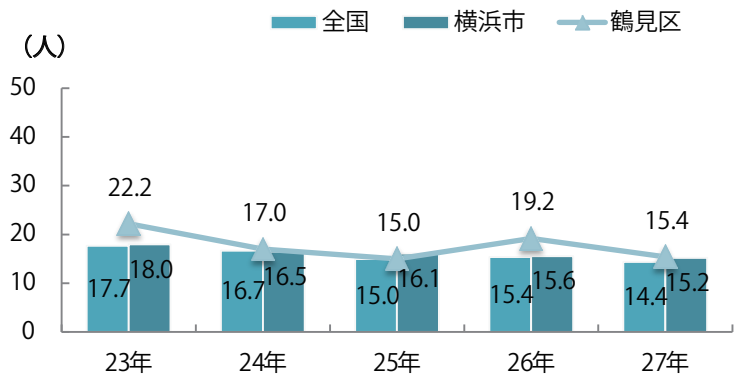
鶴見区の平均寿命（0歳の平均余命）は、男性で18区中17位、女性で18区中14位となっています。

区別生命表：平均寿命（0歳平均余命）（平成23年）

	男	女
横浜市	80.27	86.30
鶴見区	78.76	85.61
神奈川区	79.75	86.31
西区	79.60	85.22
中区	76.41	84.57
南区	79.07	84.79
港南区	80.59	87.16
保土ヶ谷区	79.45	86.47
旭区	79.71	86.00
磯子区	79.72	86.44
金沢区	81.03	86.75
港北区	81.32	86.94
緑区	81.14	85.84
青葉区	82.04	87.10
都筑区	82.49	86.90
戸塚区	80.95	86.36
栄区	81.38	88.08
泉区	80.76	86.22
瀬谷区	79.69	85.49

## ● 結核

鶴見区の結核罹患率は、平成26年は微増しましたが、ここ数年減少傾向にあります。



※結核罹患率とは、新規結核登録者数を人口10万人に換算した数値

結核の予防には、栄養バランスのとれた食生活、十分な休息、禁煙など健康管理に注意することが大切だよ！  
咳が2週間以上止まらない、微熱が続く等の症状がある場合は、最寄りの内科・呼吸器科を受診しましょう。



資料：鶴見区福祉保健課

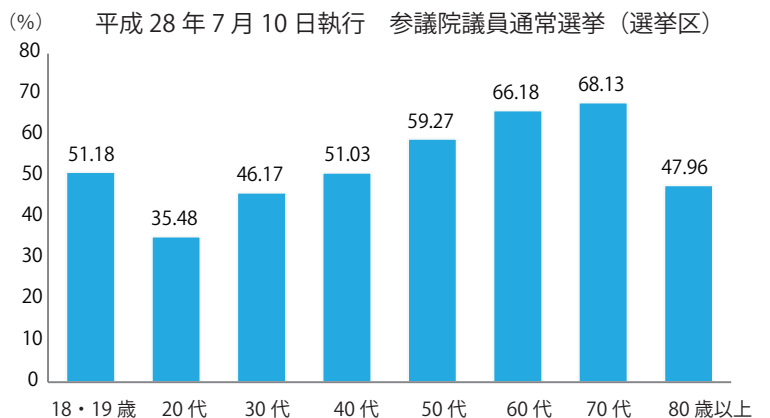
# 12 選挙

鶴見区の投票率は低迷しており、近年の選挙ではいずれも横浜市平均を下回っています。また、年齢別に投票率をみると、20代の投票率が最も低く、若年層を中心に投票率の向上が課題となっています。

## ● 最近の投票率

選挙名	選挙日	投票率（%）		18区中順位
		鶴見区	横浜市	
参議院議員通常選挙（選挙区）	H28.7.10	53.11	56.53	17位
統一地方選挙（市会）	H27.4.12	39.79	42.00	15位
衆議院議員総選挙（小選挙区）	H26.12.14	50.03	54.06	17位
横浜市長選挙	H25.8.25	26.25	29.05	18位
参議院議員通常選挙（選挙区）	H25.7.21	52.37	55.54	16位
衆議院議員総選挙（小選挙区）	H24.12.16	56.72	60.50	16位

## ● 鶴見区年齢別投票率（在外投票を除く）



# つるみマップ TSURUMI★MAP



鶴見区には市民利用  
施設や見どころがた  
くさんあるよ！




【協力】 鶴見歴史の会 齋藤美枝様 ◆◆ Special Thanks ◆◆

【参考文献】

- 鶴見区史編集委員会 昭和 57 年 区制施行五十周年記念『鶴見区史』鶴見区史刊行委員会
- 神奈川新聞社編 1969 年 『文学神奈川地図』 有隣堂
- サトウマコト著 1995 年 『鶴見線物語』 230 クラブ新聞社
- サトウマコト編著 2002 年 『第二京浜国道と鶴見めがね橋物語』 230 クラブ
- 中嶋昭著 1997 年 『鶴見ところどころ—私の鶴見・近現代史—』 230 クラブ新聞社
- 『つるみ このまち このひと』編集委員会 平成 11 年 『つるみ このまち このひと』 いいまち鶴見運動推進委員会
- 八幡義信ほか 平成 12 年 『神奈川の東海道（下）—遙かな時代の道の賑わい』 神奈川東海道ルネッサンス推進協議会
- 鶴見みどころ 90 平成 29 年 編集・発行 鶴見区制 90 周年記念事業実行委員会


医療法人 皓慈会



## 浅川産婦人科医院

### ☎045-581-3541

外来診療 9時～12時  
16時～19時  
土曜午後・日曜・祝日休診




JR鶴見駅  
西口  
徒歩3分

駐車場  
あり

＊ 出産はもちろん、産後ケア入院にも取り組んでいます ＊

赤ちゃんとお過ごせる  
全室個室の入院設備

当院で生まれた生後2カ月までの赤ちゃんとお母さんの相談会「浅川っ子」を定期開催



〒230-0062 横浜市鶴見区豊岡町22-15

T S U R U M I



T S U R U M I



発行：鶴見区役所総務課統計選挙係

横浜市鶴見区鶴見中央3-20-1

電話 045-510-1660

FAX 045-510-1889

<http://www.city.yokohama.lg.jp/tsurumi/>

T S U R U M I



T S U R U M I